

十間屋敷遺跡

—第10次発掘調査報告—

令和2（2020）年3月
久留米市教育委員会

十間屋敷遺跡

—第10次発掘調査報告—

令和2（2020）年3月
久留米市教育委員会

序

久留米市は古くから水路と陸路の要衝としての位置を占め、筑後地方における政治・経済・文化などの面で発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。

久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米城下の南東部に位置する日吉町で実施しました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和2年3月31日

久留米市教育委員会
教育長 大津 秀明

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一氏の委託を受けて実施した、十間屋敷遺跡第 10 次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の大隈彩未と長谷川桃子が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、調査担当者と当課職員の熊代昌之が行い、浄書は当課専任非常勤職員の今村理恵が行った。
4. 空中写真以外の遺構写真はマミヤ RB67 を用いて、調査担当者が撮影した。調査区全体の空中写真は、有限会社空中写真企画が気球を用いて撮影した。遺物写真は、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 II を用いて大隈・長谷川が撮影した。
5. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成 28 年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
6. 遺構表記の略記号は、以下の通りである。
S D—溝 S E—井戸 S K—土坑 S P—ピット S X—その他の遺構
7. 遺物観察表の凡例は、以下の通りである。
 - ・法量の単位は cm である。() 内の数値は復元値および現存値を示す。
 - ・色調は、『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997 年版）に拠るものである。
8. 実測図と観察表、写真図版の遺物番号は全て同一である。
9. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
10. 本調査の略記号は L K J - 010、調査番号は 201805 である。
11. 本文の執筆と編集は大隈が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査及び報告書作成にかかわる体制	1
3. 調査の経過	2
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	5
1. 検出遺構	5
2. 出土遺物	22
IV. 総括	32
1. 遺構の変遷について	32
2. 屋敷の土地利用について	32
3. 屋敷の居住者について	32

挿図目次

第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	3
第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)	3
第3図 延寶八年久留米市街図 (1680年)	4
第4図 伝元禄十四年製之古図 (1701年)	4
第5図 天保年間久留米城下図 (1830～1844年)	4
第6図 安政二年改旧廓図 (1855年)	4
第7図 明治二年旧郭図 (1869年)	4
第8図 十間屋敷遺跡第10次調査遺構配置図 (1/150)	6
第9図 十間屋敷遺跡第10次調査遺構番号図 (1/150)	7
第10図 S D 3・6・7・37・11・18・20・31・39・41・77・87 断面図 (S D 11・18・20・31・39・41は1/40、それ以外は1/60)	14
第11図 S E 118・120・S K 2・4 実測図 (S K 4は1/60、それ以外は1/40)	15
第12図 S K 13・14・24・32・40・44 実測図 (S K 32は1/60、それ以外は1/40)	16
第13図 S K 48・49・50・51 実測図 (S K 48は1/60、それ以外は1/40)	17
第14図 S K 59・67・70・75・78 実測図 (S K 70は1/40、それ以外は1/60)	18
第15図 S K 82・93・111・113・119・121 実測図 (S K 93は1/40、それ以外は1/60)	19
第16図 S K 124・126・127・129・130 実測図 (S K 129は1/40、それ以外は1/60)	20
第17図 S K 131・135・139・144・145・S X 81 実測図 (S K 131は1/60、それ以外は1/40)	21
第18図 都市計画図・天保年間久留米城下図・溝状遺構の合成図 (1/1,500)	32
第19図 十間屋敷遺跡第10次調査主要遺構時期変遷図 (1/150)	34

表 目 次

第 1 表	出土遺物観察表 1	22
第 2 表	出土遺物観察表 2	23
第 3 表	出土遺物観察表 3	24
第 4 表	出土遺物観察表 4	25
第 5 表	出土遺物観察表 5	26
第 6 表	出土遺物観察表 6	27
第 7 表	出土遺物観察表 7	28
第 8 表	出土遺物観察表 8	29
第 9 表	出土遺物観察表 9	30
第 10 表	出土遺物観察表 10	31

図 版 目 次

図版 1	(1) 調査区全景 (東上空から)	(3) S K 93 遺物出土状況 (南から)
	(2) 北調査区 (南から)	(4) S K 121 完掘状況 (南から)
	(3) 調査区から通町を望む (南から)	(5) S K 124 完掘状況 (北から)
	(4) 調査区西側断面 (東から)	(6) S K 130 完掘状況 (南から)
	(5) S D 3・31 完掘状況 (北から)	(7) S K 131 完掘状況 (北から)
図版 2	(1) S D 7・37 完掘状況 (南から)	(8) S K 139 完掘状況 (南から)
	(2) S D 11 完掘状況 (南から)	図版 5 遺物写真 1
	(3) S D 20 完掘状況 (南から)	図版 6 遺物写真 2
	(4) S D 41 完掘状況 (南から)	図版 7 遺物写真 3
	(5) S D 77 完掘状況 (南から)	図版 8 遺物写真 4
	(6) S D 87 南壁断面 (北から)	図版 9 遺物写真 5
	(7) S D 87 完掘状況 (北から)	図版 10 遺物写真 6
	(8) S E 118 完掘状況 (南から)	図版 11 遺物写真 7
図版 3	(1) S E 120 断面 (北から)	図版 12 遺物写真 8
	(2) S K 2 遺物出土状況 (南から)	図版 13 遺物写真 9
	(3) S K 4 完掘状況 (北から)	図版 14 遺物写真 10
	(4) S K 13 完掘状況 (南から)	図版 15 遺物写真 11
	(5) S K 14 完掘状況 (北から)	図版 16 遺物写真 12
	(6) S K 32 完掘状況 (西から)	図版 17 遺物写真 13
	(7) S K 40 完掘状況 (南西から)	図版 18 遺物写真 14
	(8) S K 59 完掘状況 (東から)	図版 19 遺物写真 15
図版 4	(1) S K 67 断面 (南から)	図版 20 遺物写真 16
	(2) S K 82 完掘状況 (北から)	

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成30年2月2日、土地所有者の株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一氏から久留米市日吉町22-2、22-15、22-16、22-17における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の十間屋敷遺跡で、江戸時代以前の遺構が残存している可能性が高いため、発掘調査が必要である旨を回答した。同年4月2日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年5月23日付で十間屋敷遺跡第10次調査の協定書と委託契約を取り交わした。

現地での発掘調査は同年6月11日に着手し、10月12日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいた委託契約を取り交わし、令和2年3月31日まで行った。対象面積1,208㎡のうち、調査面積は288㎡である。

2. 調査及び報告書作成にかかる体制

調査委託者：株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：大津秀明

調査総括：久留米市 市民文化部 部長：松野誠彦（平成30年度）

宮原義治（平成31・令和元年度）

文化芸術担当部長：宮原義治（平成30年度）

竹村政高（平成31・令和元年度）

次長：西村信二

文化財保護課 課長：水島秀雄

課長補佐：久保田由美

課長補佐兼主査：白木守 丸林禎彦

主査：水原道範

事務主査：塚本映子 小澤太郎（平成31・令和元年度）

調査担当：大隈彩未 長谷川桃子

整理担当（専任非常勤職員）：米澤美詠子 宮崎彩香 今村理恵

岩坪純子（平成30年度）

発掘調査臨時職員

青木佐智子、秋永絹子、石橋康子、江崎真帆、太江田博子、大淵文子、居石寿智、鐘江清川野洋之、川原初美、進上裕永、田中とし子、津留崎順子、中村万喜男、原学、東南平田広之、福田猛、舟越朝菜、本荘郁子、松尾朱美、森美月、諸藤稔、矢野崇徳、山口誠也

発掘調査整理臨時職員

山口久美子

3. 調査の経過

今回の調査地点は、近世の久留米城下における十間屋敷の範囲に含まれる。近世以前の土地利用の状況を確認することを目的に発掘調査を実施した。平成30年6月11日に調査の開始予定であったが、降雨のため、翌日から6月14日まで重機で表土剥ぎを行った。6月18日より遺構の検出をはじめ、遺構の掘り下げや実測、写真撮影を行った。10月10日に気球を用いて調査区全体の空中写真を撮影した。10月11日には調査区の埋め戻しおよび北側調査区の表土剥ぎを実施した。北側調査区は遺構検出を行い、上面確認のみ行った。遺構の測量と写真撮影を行い、北側調査区の埋め戻しを行った。器材の撤収を行い、10月12日に現地での作業をすべて終了した。

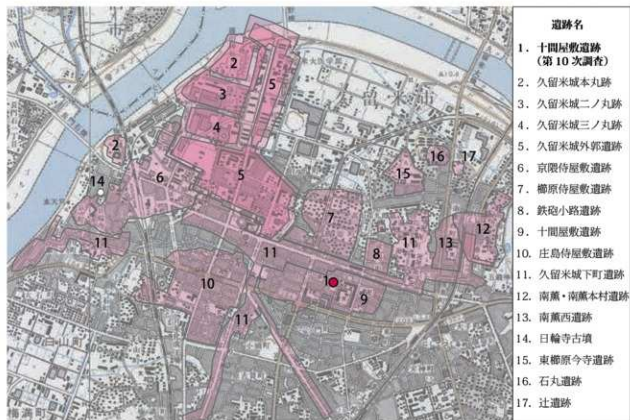
II. 位置と環境

久留米市は、筑紫平野のほぼ中央部に立地し、阿蘇外輪山を起点として有明海まで注ぐ筑後川の中流域に位置する。十間屋敷遺跡は低位段丘上に位置し、本調査地点は標高約12mを測る。

遺跡周辺は、南薫西遺跡で縄文時代とみられる落とし穴が2基確認されている。弥生時代になると、東櫛原今寺遺跡や南薫本村遺跡では竪穴建物が、石丸遺跡や辻遺跡では甕棺墓が検出されており、周辺で集落や墓地が営まれていたことが確認できる。古墳時代は、低位段丘の西端に日輪寺古墳が位置している。5世紀末から6世紀初頭に築造された前方後円墳で、横穴式石室の石障には線刻による装飾が施されている。奈良時代の遺跡付近は筑後国御井郡節原郷に比定されており、その中心的な集落とみられる南薫西遺跡では掘立柱建物群が検出されているほか、多量の墨書土器や刻書土器が出土している。その後、中世期には天徳4(960)年に大宰府安楽寺領櫛原荘が成立する。

天正15(1587)年には、豊臣秀吉の九州国割に伴って小早川秀包が久留米城に入城した。秀包はキリシタン教会を建てるなど久留米城下の整備を行っている。慶長6(1601)年に田中吉政が筑後国に入国したが、2代忠政が無嫡子のまま死去したため改易となり、元和6(1621)年に丹波国福知山より有馬豊氏が転封となって、入城した。有馬氏入城後には、久留米城下においてさらなる整備が行われ、段丘上には4つの侍屋敷が造成された。そのうちのひとつ、十間屋敷は久留米城下町の東南部、通町筋の南側に位置している。『石原家記』の記述によると、寛永13(1636)年には十間屋敷が完成している。

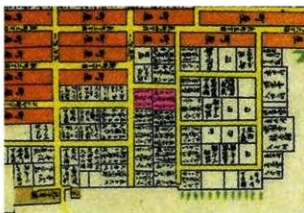
本調査地は、2区画をまたぐ調査区が設定されている。当時の居住者は、「延寶八年久留米市街図」(1680年)および「伝元禄十四年製之古図」(1701年)によれば、東側が四宮市右衛門、西側が田尻次郎衛門である。その後、居住者が変わり、「天保年間久留米城下図」(1830～1844)や「安政二年改旧廓図」(1855年)、「明治二年旧郭図」(1869年)では、東側が井上弥左衛門、西側は加藤郷蔵が居住を構えていたことが窺える。また、「天保年間久留米城下図」には、東側の井上家の東端に番所が確認できる。



第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)



第3図 延寶八年久留米市街図 (1680年)



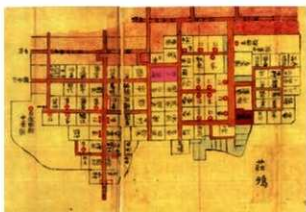
第4図 伝元禄十四年製之古図 (1701年)



第5図 天保年間久留米城下図 (1830～1844年)



第6図 安政二年改旧廓図 (1855年)



第7図 明治二年旧廓図 (1869年)

※ ■ は、調査地点を示す。

Ⅲ. 調査の記録

1. 検出遺構

今回の発掘調査は、十間屋敷の2軒の屋敷地をまたぐ調査区であり、屋敷境の溝などの施設が検出されることが期待された。調査の結果、近世の溝19条、井戸2基、土坑105基、不明遺構1基、ピット多数を検出した。調査区の東端は後世の攪乱によって削平されており、確認できた遺構は少ない。遺構の時期は18～19世紀のものが主体であるが、中には17世紀に遡るものもある。以下、主要な遺構について記す。

溝

SD3 (第10図・図版1)

調査区西端で検出された南北溝である。遺構の東・南部は後世の遺構(SK4・24)に削平されている。軸はN-19°-Eで、北端は調査区外にのびる。約4.0m検出し、上端幅0.9m、深さ0.1mを測る。断面は逆台形を示している。遺物は近世陶磁器や土師器、瓦が出土しており、18世紀～19世紀初頭に属する。

SD6 (第10図)

調査区西端で検出された南北溝である。軸はN-15°-Eで、南北端は調査区外にのびる。SK4や近代の土坑に先行する。残存部は、長さ4.5m、上端幅0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物の量は少なく、陶器の拙鉢が出土している。遺構の先後関係および出土遺物の特徴から、18世紀後半にはおさまると考えられる。

SD7 (第10図・図版2)

調査区西端で検出された南北溝である。SK4・22に先行する。軸はN-16°-Eで、長さ4.5m、上端幅0.4m、深さ0.1mを測る。断面は台形を示す。出土遺物は近世陶磁器や土師器、瓦があるが、大半が細片である。遺構の重複関係から近世期の遺構であると推察される。

SD11 (第10図・図版2)

調査区西部で検出された南北溝である。軸はN-9°-Eを測り、南端を近代の土坑に切られている。SD20・39・87に後出する。規模は、長さ3.0m、上端幅0.65mを測り、最深部の深さは0.7mである。底面の高低差が約0.3mあり、溝の北部が浅くなっている。断面は逆台形を示す。遺物は近世陶磁器や土師器が出土しており、18世紀後半に属する。

SD18 (第10図)

調査区西部で検出された南北溝である。SD87に後出する。軸はN-17°-Eで、南北端は調査区外にのびる。長さ4.0mを検出しており、上端幅0.5m、深さ0.35mを測る。断面は逆台形で、西から東に緩く傾斜している。遺物は、近世陶磁器や土師器が出土しており、19世紀後半以降の様相を示す。

SD20 (第10図・図版2)

調査区西部で検出された南北溝である。軸はN-19°-Eで、SK4・SD11に先行する。長



第8図 十間屋敷遺跡第10次調査遺構配置図(1/150)



第9図 十間屋敷遺跡第10次調査遺構番号図(1/150)

※灰色線は
下層の遺構を示す。

さ 4.5 m を検出しており、上端幅 0.8 m、深さ 0.75 m を測る。断面は逆台形を示している。遺物は近世陶磁器や土師器、瓦質土器が出土している。陶器は溝緑や銅緑釉の皿が出土しており、17 世紀後半に属する。

SD 31 (第 10 図・図版 1)

調査区西部で検出された溝である。SD 3・SK 32 に先行する。軸は N-19°-E で、長さ 2.3 m、上端幅 0.6 m、最深部は 0.2 m を測る。遺物は近世陶磁器や土師器、石製品が出土しており、18 世紀後半から 19 世紀初頭に属する。

SD 37 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。SD 6 と SD 7 の東側に位置し、SK 4 に先出する。軸は N-15°-E で、長さ 2.3 m、上端幅 0.3 m、深さ 0.4 m を測る。断面は逆台形を示している。遺物は、染付碗の細片が 1 点出土したのみで、遺構の重複関係から 19 世紀後半までに収まると考えられる。

SD 39 (第 10 図)

調査区西部で検出された溝である。SD 20 や SK 4・40 に先行し、ごく一部が残存する。軸は N-15°-E で、長さ 4.2 m を検出し、上端幅 0.6 m、深さ 0.23 m を測る。断面は逆台形を呈すると想定される。遺物は近世陶磁器や土師器が出土している。17 世紀後半に属する。

SD 41 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。SK 32・40 に先行する。軸は N-15°-E で、長さ 0.6 m 残存しており、上端幅 0.7 m、深さ 0.45 m を測る。断面は丸みを帯びた逆台形を示している。埋土からは近世陶磁器や土師器、石製品が出土している。17 世紀後半に属する。

SD 77 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。軸は N-13°-E を測る。SK 48 に先行し、SK 59・SD 87 に後出する。長さ 7.2 m 検出しており、上端幅 0.9 m、深さ 0.45 m を測る。断面は逆台形を示し、北から南に約 0.1 m 深くなっている。埋土からの出土遺物は近世陶磁器や土師器、瓦が出土している。検出当初は SK 59 に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、SK 59 に後出することが判明した。遺物の時期は、19 世紀後半(幕末)に属する。

SD 87 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。調査区を南北に走っており、軸は N-19°-E を測る。SD 11・18・77・SK 48・59 に先行する。南北 10 m を検出し、幅 1.8 m、深さ 1.7 m を測る。北から南に傾斜しており、0.8 m の高低差が生じている。断面は、壁面がえぐれており、南部は逆台形を呈する。遺物は近世陶磁器や土師器、炭化物が出土している。床面からは初期伊万里碗や陶器の溝緑皿などが出土しており、17 世紀前半～中頃に属する。

井戸

SE 118 (第 11 図・図版 2)

調査区中央部で検出された素掘りの井戸である。SK 119 に先行する。遺構の上端は、後出す

る遺構に切られており、残存部分の規模は直径0.95 m・深さ1.3 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は近世陶磁器や土師器が出土し、17世紀前半～中頃に属する。

SE 120 (第11図・図版3)

調査区東部で検出された素掘りの井戸である。SK 90・121に先行する。直径1.6 mを測る。掘削面にボーリングステッキで確認したところ、深さは2 m以上に及ぶと想定された。そのため、安全面を考慮し、1.5 mで掘削を止め、完掘には至っていない。埋土は上層に約0.5 m極暗褐色土が堆積し、その下には黒褐色土が認められる。下層になるにつれて埋土のしまりが強い。遺物は近世陶磁器や土師器、石製品が出土し、17世紀後半の所産が主体で、18世紀前半まで及ぶ。

土坑

SK 2 (第11図・図版3)

調査区西端で検出された土坑である。平面は楕円形を呈し、規模は長辺2.3 m、短辺0.9 m、深さ0.4 mを測る。埋土は、暗褐色土が主で、黄褐色土の粒や炭化物を含む。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品、金属製品が出土している。遺物の時期は、18世紀後半から19世紀代に属する。

SK 4 (第11図・図版3)

調査区西部で検出された土坑である。SD 3・6・7・20・39やSK 40・44に後出する。規模は、長さ3.2 m、幅2.6 m、深さ0.6 mを測る。平面プランは隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体で、黄色土ブロックや橙色土ブロック、炭化物を含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、金属製品などが出土している。19世紀後半に属する。

SK 13 (第12図・図版3)

調査区南西部で検出された土坑である。平面は楕円形であり、規模は、長さ2.9 m、幅2.1 m、深さ1.0 mを測る。遺構の南部には、4段ほどのステップが確認される。埋土は、遺構の上層では暗褐色土が占めており、下層ではにぶい黄橙色土や橙色土が主である。下層になるにつれて、埋土がやや砂質になる。地山の崩落土も確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、石製品が出土している。18世紀後半に属する。

SK 14 (第12図・図版3)

調査区北西部で検出された土坑である。遺構の大半は調査区外に伸びており、平面は楕円形を呈すると想定される。残存部分は、長さ3.7 m、幅1.0 m、深さ0.5 mを測る。18世紀後半から19世紀初頭に属するSD 29に後出する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、金属製品などが出土している。陶磁器の時期は、18世紀後半から19世紀前半を示す。

SK 24 (第12図)

調査区西端で検出された土坑である。平面は楕円形を呈し、長さ1.1 m、幅0.5 m、最深部の深さは0.3 mを測る。遺構の北部に若干のステップを持つ。遺物は、近世陶磁器や土師器の坂東寺焼の灰器などが出土している。遺物の時期は、19世紀を示す。

SK 32 (第12図・図版3)

調査区北西端で検出された土坑である。S D 3に先行し、S D 31・41に後出する。遺構の大半は調査区外に広がっており、平面形は不明である。遺構の規模は、長さ9.0 m、幅0.7 m、深さ1.0 mを測る。S D 31との先後関係から複数の遺構が重なっている可能性が高い。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、下層は17世紀前半・上層は17世紀後半を示す。

S K 40 (第12図・図版3)

調査区西部で検出された土坑である。S K 4・44に先行し、S D 39・41に後出する。遺構の大半は他の遺構に切られているが、残存状況から平面形は楕円形を呈すると想定される。残存部は、長さ2.1 m、幅0.7 m、深さ0.5 mを測る。近世陶磁器や土師器、瓦片、石製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀後半から18世紀前半を示す。

S K 44 (第12図)

調査区北西端で検出された土坑である。S K 4に先行し、S K 40に後出する。遺構の大半は他の遺構と重複し、平面形は不明である。残存部分は長さ1.5 m、幅0.5 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器が出土している。陶磁器の時期は、17世紀～18世紀前半を示す。

S K 48 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S P 73に先行し、S D 77・S K 123・131に後出する。平面形はほぼ円形を呈する。遺構の規模は、長さ2.7 m、深さ0.6 mを測る。埋土は、黒褐色土が主で、粘質土を含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀から19世紀後半を示すが、遺構の埋没時期としては19世紀後半といえる。

S K 49 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 52に先行し、S K 75・126・145・S X 81に後出する。平面形は楕円形を呈する。遺構の規模は、長軸2.7 m、短軸1.3 m、深さ0.35 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、石製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀から18世紀前半を示すが、遺構の重複関係より19世紀後半の埋没である。

S K 50 (第13図)

調査区中央部南端で検出された土坑である。遺構の南部は調査区外に広がり、なおかつ近代の擾乱に切られている。S K 51に後出する。遺構の規模は、長さ2.5 m、幅1.0 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品が出土している。陶磁器の時期は、19世紀後半を示す。

S K 51 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 123・131に先行し、遺構の南北端は残存しない。残存部分は、長さ1.2 m、幅1.1 m、深さ0.75 mを測る。出土遺物は、近世陶磁器や土師器、石製品であるが、大半が破片である。陶磁器の時期は、18世紀以降の時期を示す。

S K 59 (第14図・図版3)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 70に先行し、S D 77・78・S K 75に後出する。

平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は、長軸 3.4 m、短軸 1.6 m、最深部の深さは 1.2 m を測る。遺構の南東部では、ステップが確認できる。埋土はほぼ平行に堆積しているが、ブロックや灰、炭化物を多く含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦片、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、上層が 18 世紀前半、下層が 17 世紀後半～18 世紀を示す。検出当初は S D 77 に後出すると判断していたが、遺物整理の結果、S D 77 に先行することが判明した。

S K 67 (第 14 図・図版 4)

調査区中央部北端で検出された土坑である。S K 66 に先行し、S K 123 に後出する。遺構の北端は調査区の外に伸びており、平面形はほぼ円形を呈すると想定される。遺構の規模は、長さ 2.7 m、幅 1.9 m、深さは最深部で 0.7 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、陶磁器の時期は、18 世紀後半を示す。

S K 70 (第 14 図)

調査区中央部南端で検出された土坑である。S K 59・144・S X 81 に後出する。楕円形を呈しており、遺構は、長軸 1.8 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 m を測る。遺物は、近世陶磁器や瓦質土器、瓦片、石製品が出土している。19 世紀後半。

S K 75 (第 14 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 49・59 に先行し、S K 132 に後出する。平面形は隅丸方形あるいは楕円形を呈すると想定される。遺構の規模は、長さ 2.6 m、深さ 1.0 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器が出土している。陶磁器の時期は、17 世紀から 18 世紀中頃を示す。

S K 78 (第 14 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 82・126・129・135 に後出する。平面形は細長い楕円形を呈する。遺構の規模は、長さ 3.1 m、幅 1.1 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、磁器や土師器、石製品が出土しているが、ほとんどが細片で遺物の時期は不明である。遺構の重複関係より 19 世紀に属する。

S K 82 (第 15 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。平面形は円形を呈する。S K 78・119 に先行し、S K 126・144 に後出する。遺構の規模は、長さ 2.4 m、深さ 0.8 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦片が出土している。特記すべき遺物として、志野焼の鉢が出土している。遺物の時期は 16 世紀から 17 世紀後半である。

S K 93 (第 15 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 139 に後出する。平面は隅丸長方形を呈し、遺構南部に段をなしている。遺構の規模は、長さ 1.2 m、幅 1.1 m、深さ 0.5 m を測る。遺物は、近世陶磁器や太刀が出土している。遺構の先後関係から近代の遺構といえる。

S K 111 (第 15 図)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100・130に先行し、S K 113に後出する。平面形は楕円形で、遺構の規模は、長さ2.2 m、幅1.9 m、深さ0.3 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、遺物の時期は19世紀後半である。

S K 113 (第15図)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100・111・119に先行する。平面形は楕円形推定される。遺構の規模は、長さ1.3 m、幅1.9 m、深さ0.6 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。検出当初はS K 124に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、S K 124に後出することが判明した。遺物の時期は19世紀後半を示す。

S K 119 (第15図)

調査区東部で検出された土坑である。S K 110に先行し、S E 118・S K 82・113に後出する。平面形は楕円形で、遺構の規模は、長さ3.4 m、幅2.0 m、深さ0.6 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は19世紀後半である。

S K 121 (第15図・図版4)

調査区東部で検出された土坑である。S E 120に先行する。平面形は楕円形で、遺構は一辺2.4 m、深さ0.8 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は19世紀後半である。

S K 124 (第16図・図版4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100・130に先行する。平面形は隅丸方形で、遺構の規模は長さ2.3 m、幅2.1 m、深さ0.8 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。検出当初はS K 113に後出すると判断していたが、遺物整理の結果、先行することが判明した。出土遺物の時期から、17世紀後半～18世紀後半に収まると推測される。

S K 126 (第16図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 49・52・78・82に先行し、S K 135に後出する。平面形は楕円形と呈すると想定される。遺構の残存部分は長さ2.5 m、幅1.3 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は、17世紀後半に属する。

S K 127 (第16図)

調査区東北端で検出された土坑である。S K 130に先行する。遺構の南部は調査区外にのび、北部は他遺構に切られているため、平面形は不明である。残存部分は、長さ1.1 m、幅2.6 m、深さ0.7 mを測る。遺構の東部にはステップが確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。19世紀後半の所産である。

S K 129 (第16図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 78・132に先行し、S K 131に後出する。遺構は細長い楕円形を呈し、長さ1.9 m、幅0.9 m、深さ0.6 mを測る。白磁碗や土師器細片が出土した。

S K 130 (第 16 図・図版 4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100 に先行し、S K 111・124・127 に後出する。平面形は隅丸長方形で、遺構の規模は、長辺 2.7 m、短辺 1.9 m、深さ 1.6 m を測る。遺構の東部にステップを有する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。陶磁器の時期は 19 世紀後半に属する。

S K 131 (第 17 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。S P 73・S K 48・123・132 に先行し、S K 129 に後出する。遺構の規模は、長さ 4.4 m、最大幅 2.4 m、深さ 1.2 m を測る。遺構の南部にステップをもち、底面は窪みが確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、17 世紀後半以降を示している。

S K 135 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 78・126 に先行する。平面は細長い楕円形をしており、遺構の規模は、長さ 1.8 m、幅 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。検出当初は S K 126 に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、後出することが判明した。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦が出土しており、時期は 19 世紀を示す。

S K 139 (第 17 図・図版 4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 93 に先行し、S K 116 に後出する。遺構の北部は調査区の外に拡がっており、平面形は不明である。残存部分は長さ 2.8 m、幅 0.8 m、深さ 1.1 m を測る。出土遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品で、17 世紀後半から 18 世紀前半を示す。

S K 144 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 48・70・82・131・132 に先行し、S K 129 に後出する。残存する遺構の規模は、長さ 2.6 m、幅 1.4 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。詳細な時期決定は難しいが、遺構の先後関係から 17 世紀後半以降 19 世紀後半には取まると考えられる。

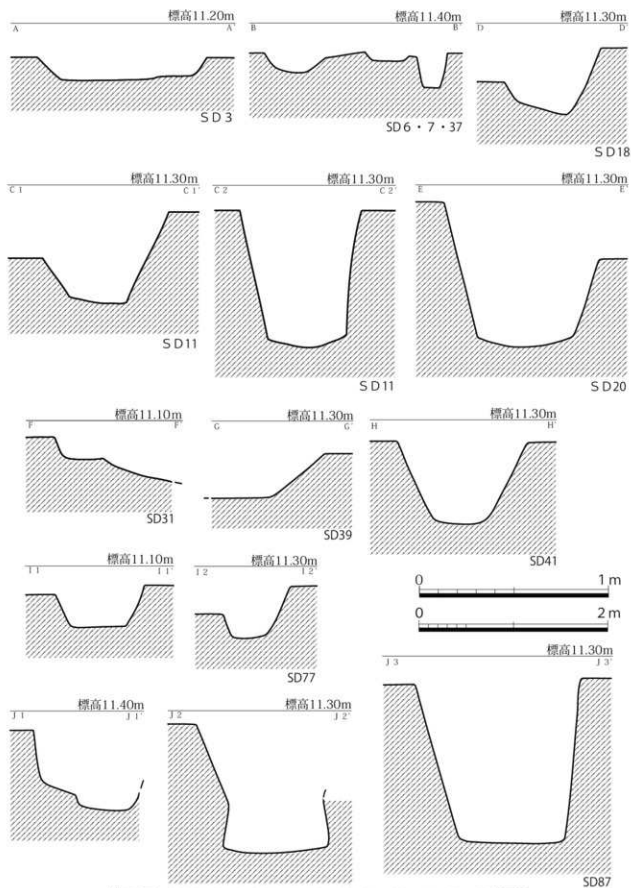
S K 145 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 48・49・129 に先行し、S K 129 に後出する。残存する遺構の規模は、長さ 2.3 m、幅 0.8 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器などが出土している。遺構の先後関係より 17 世紀後半以降 19 世紀後半と推定される。

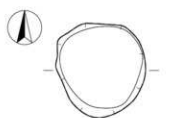
その他の遺構

S X 81 (第 17 図)

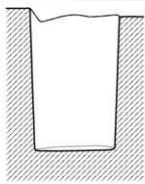
調査区中央部南端で検出された遺構である。溝状の遺構は緩やかなカーブを描いており、長さ 3.7 m、最大幅 0.5 m、深さ 0.2 m を測る。S K 49・70 に先行し、S K 144・145 に後出する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は 19 世紀後半を示す。



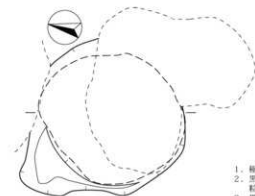
第10図 S D 3・6・7・37・11・18・20・31・39・41・77・87 断面図
 (S D 3・11・18・20・31・39・41は1/40、それ以外は1/60)



標高10.90m



SE 118



標高11.10m



SE 120

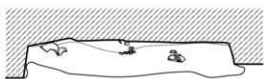
1. 暗褐色土。ブロックを含む。
2. 黒褐色土。0.5~1.0cm大の暗褐色・褐色・黒褐色の粒を含む。
3. 暗褐色土+褐色土。
4. 暗褐色土。0.5~1.0cm大の黄褐色土・2.0~3.0cm大の褐色土の粒を含む。
5. 黒褐色土。0.5~1.0cmの黄褐色土・1.0~2.0cm大の黒色土の粒を含む。
6. 暗褐色土。10.0cm大の灰褐色土・1.0~5.0cm大の褐色土ブロックおよび粒を含む。
7. 黒褐色土+褐色土。
8. 黒色土。0.5cm大の褐色土・1.0cm大の礫を含む。1.0cm大の炭化物・鉄分を少量含む。
9. 黒色土。1.0cm大の黒褐色土・褐色土ブロック・炭化物を含む。
10. 黒色土。1.0~5.0cm大の黄褐色土・1.0cm大の黒色土ブロックを含む。
11. 黄褐色土。
12. 暗褐色土。1.0cm大の暗褐色土ブロックを含む。
13. 黒褐色土。0.5cm大の赤褐色・0.5~3.0cm大の暗褐色の粒およびブロックを含む。
14. 褐色土。粘り強い。1.0~2.0cm大の浅黄褐色砂質ブロックを含む。
15. 黄褐色土+黄褐色土。粘り強い。



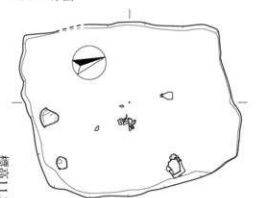
標高11.30m



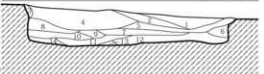
SK 2



標高11.30m



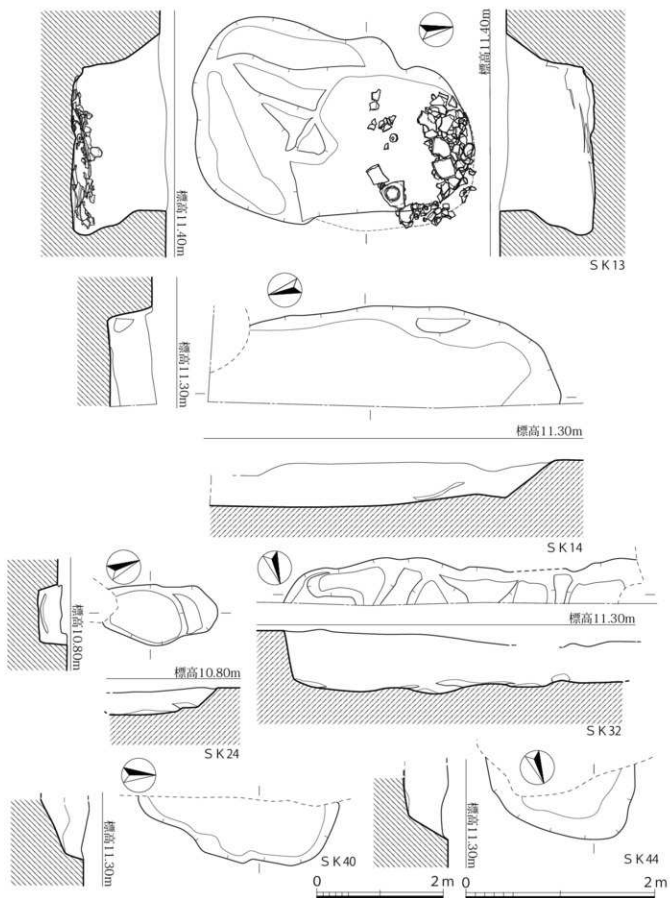
標高11.30m



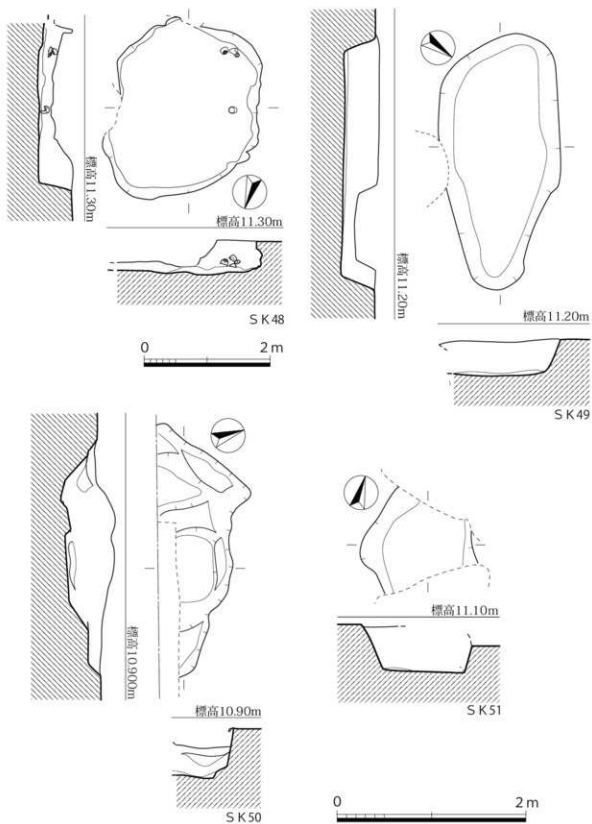
SK 4

1. 暗褐色土。2.0~5.0cmの礫・炭化物を含む。しまりあり・強い。
2. 暗褐色土。陶磁器・黄色土ブロック・炭化物を含む。しまりあり・強い。
3. 地山ブロック。
4. 暗褐色土。2.0~20.0cm大の礫と黄色土ブロックを含む。しまりあり・強い。
5. 暗褐色土。5.0cm大の礫・炭化物を含む。しまりあり・強い。
6. 暗褐色土。黄色土ブロックを含む。しまりあり・強い。
7. 暗褐色土。褐色土ブロックを含む。しまりあり・強い。
8. 第7層と同。
9. 暗褐色土。褐色土ブロックを多く含む。しまりあり・強い。
10. 暗褐色土。炭化物を多く含む。しまりあり・強い。
11. 暗褐色土。陶磁器・黄色土ブロックを含む。しまりあり・強い。
12. 暗褐色土。5.0cm大の礫と炭化物を含む。
13. 地山ブロック。
14. 第12層と同。

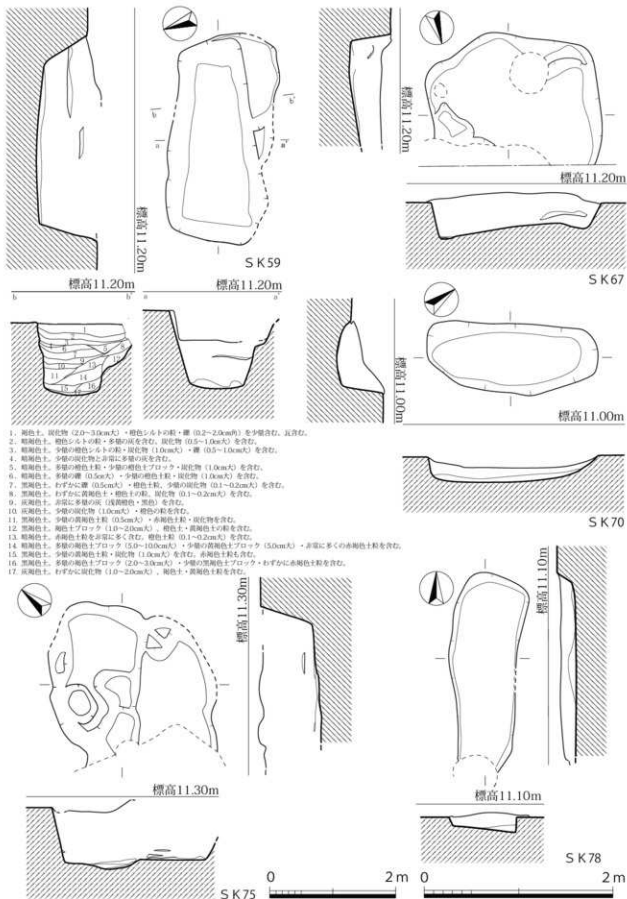
第11図 SE 118・120・SK 2・4実測図 (SK 4は1/60、それ以外は1/40)



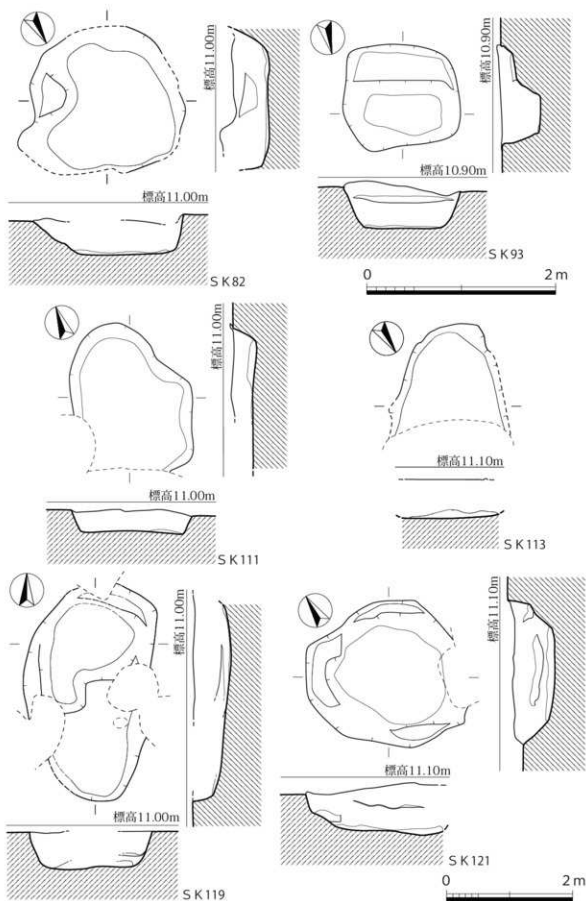
第12図 SK 13・14・24・32・40・44実測図（SK 32は1/60、それ以外は1/40）



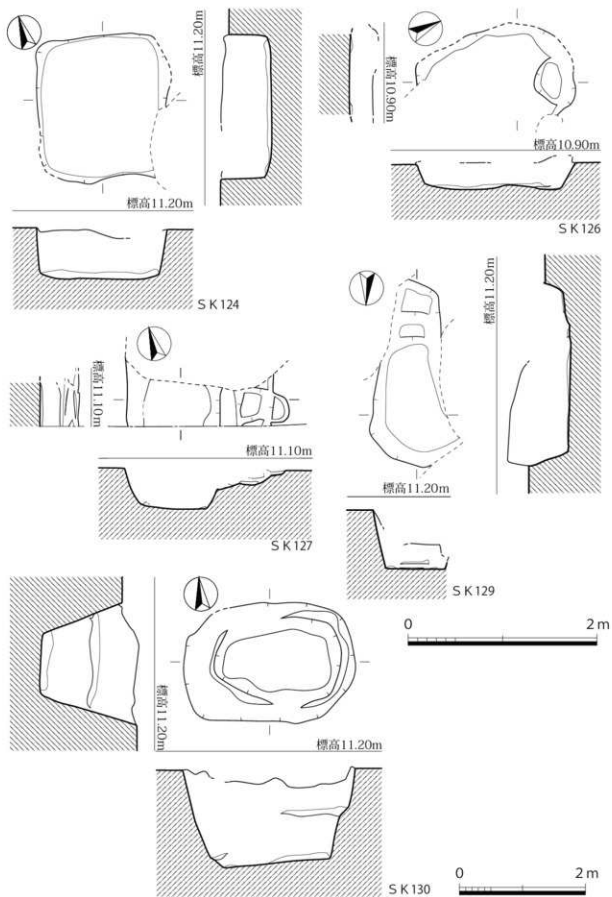
第13図 S K 48・49・50・51 実測図 (S K 48は1/60、それ以外は1/40)



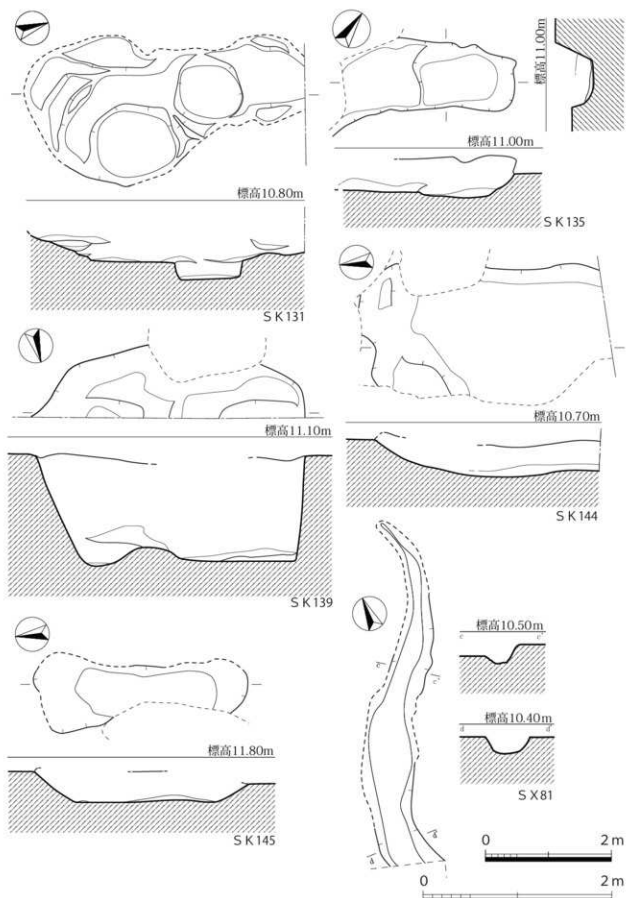
第14図 SK 59・67・70・75・78実測図 (SK 70は1/40、それ以外は1/60)



第15図 SK 82・93・111・113・119・121実測図 (SK 93は1/40、それ以外は1/60)



第16図 SK124・126・127・129・130実測図（SK129は1/40、それ以外は1/60）



第17図 SK 131・135・139・144・145・SX 81実測図 (SK 131は1/60、それ以外は1/40)

2. 出土遺物

今回の調査では、バンコンテナー 45 箱分の遺物が出土した。遺物は近世陶磁器を中心に、土師器や瓦質土器、瓦、金属製品、ガラス製品などが出土している。出土量は、18～19 世紀の陶磁器が最も多く、次いで 17 世紀の陶磁器が出土している。法量など詳細な内容については、遺物観察表を参照願いたい。

第 1 表 遺物観察表 1

図番	遺物 No.	出土遺構	種別	形状	法量		容積 [立方分米]	容材 種類	器物・図類		産地・表内内容	特徴	備考	登録 番号	
					口径(φ)	底径(φ)			高さ(φ)	内面					外面
図番 1	S03	磁器	陶	—	3.2	12.0	—	染付	牡丹	—	「戦」	新橋	201805 000028	201805 000028	
図番 2	S03	磁器	陶器	(11.2)	4.1	2.6	—	染付	蘭画・牡丹唐草	草花・虫	二条御所・延宝	正楽	201805 000035	201805 000035	
図番 3	S03	磁器	陶	—	5.5	1.6	2.6	染付	獅子・蘭唐草	—	—	—	201805 000033	201805 000033	
図番 4	S03	磁器	皿	13.7	9.0	3.6	—	染付	蘭草	牡丹唐草	龍ノ目唐草	—	201805 000032	201805 000032	
図番 5	S03	陶器	皿	—	3.8	2.2	—	染付	—	—	龍ノ目唐草	—	201805 000038	201805 000038	
図番 6	S020	磁器	陶	—	3.6	12.3	—	染付	蘭画	草花・蘭画	「吉田」	—	17世紀後半	201805 000074	201805 000074
図番 7	S020	磁器	皿	(15.0)	17.0	12.3	—	染付	—	—	—	—	1640年代	201805 000270	201805 000270
図番 8	S020	陶器	陶	(12.4)	6.0	7.0	—	灰焼	山	—	—	—	—	201805 000272	201805 000272
図番 9	S020	陶器	皿	—	4.8	12.2	—	灰焼	—	—	—	—	—	201805 000273	201805 000273
図番 10	S020	陶器	磁鉢	(11.0)	—	(5.0)	—	灰焼	—	—	—	—	—	201805 000275	201805 000275
図番 11	S031	磁器	陶	—	(3.0)	(2.2)	—	染付	石唐	—	—	—	—	201805 000358	201805 000358
図番 12	S031	磁器	陶	—	—	(5.0)	—	染付	竹・蘭画・宝	蘭画・西方佛	宝	—	—	201805 000412	201805 000412
図番 13	S039	磁器	磁物	(7.2)	—	(4.0)	—	染付	唐草・蘭草	龍ノ目唐草	—	—	—	201805 000423	201805 000423
図番 14	S039	磁器	陶	(10.2)	4.2	5.7	—	染付	山水	—	—	—	—	201805 000423	201805 000423
図番 15	S041	磁器	皿	(14.2)	7.9	2.4	—	白焼	—	—	—	—	—	201805 000432	201805 000432
図番 16	S041	磁器	陶	8.5	3.6	4.5	—	染付	二条御所・牡丹	—	—	—	—	201805 000433	201805 000433
図番 17	S041	磁器	陶	13.5	5.6	4.8	—	染付	山水	—	—	—	—	201805 000435	201805 000435
図番 18	S041	陶器	皿	12.4	4.3	3.3	—	染付	—	—	—	—	—	201805 000438	201805 000438
図番 19	S041	陶器	皿	(14.4)	4.4	3.3	—	染付	—	—	—	—	—	201805 000438	201805 000438
図番 20	S041	陶器	皿	13.9	5.0	3.0	—	灰焼	—	—	—	—	—	201805 000460	201805 000460
図番 21	S041	陶器	片口鉢	21.1	8.3	10.7	—	灰焼	—	—	—	—	—	201805 000461	201805 000461
図番 22	S077	磁器	陶	(10.0)	4.5	5.6	—	染付	山水・蘭画・唐	—	—	—	—	201805 000811	201805 000811
図番 23	S077	磁器	陶	(11.0)	5.5	5.9	—	染付	雲	雲	雲	—	—	201805 000811	201805 000811
図番 24	S077	磁器	陶	9.0	4.4	6.4	—	染付	山水・蘭画・唐	二条御所	—	—	—	201805 000815	201805 000815
図番 25	S077	陶器	陶	—	4.8	4.5	—	陶色	—	—	—	—	—	201805 000848	201805 000848
図番 26	S077	陶器	火鉢	26.5	18.4	7.6	—	赤銅 焼	ナデ・ハケ目	ハケ目・ナデ	—	—	—	201805 000851	201805 000851
図番 27	S087	磁器	陶	(10.0)	—	(5.0)	—	染付	蘭画・草花	—	—	—	—	201805 000917	201805 000917
図番 28	S087	磁器	陶	(10.0)	—	(5.0)	—	染付	蘭画・草花	—	—	—	—	201805 000945	201805 000945
図番 29	S087	磁器	陶	(10.0)	—	(5.0)	—	染付	蘭・蘭画	—	—	—	—	201805 000946	201805 000946
図番 30	S087E1	磁器	陶	—	(4.0)	6.4	—	染付	草花・二条御所 「上」	二条御所	—	—	—	201805 000963	201805 000963
図番 31	S087	磁器	陶	(0.2)	—	(4.0)	—	白焼	—	—	—	—	—	201805 000962	201805 000962
図番 32	S087	磁器	陶	(0.0)	—	(5.0)	—	白焼	—	—	—	—	—	201805 000938	201805 000938
図番 33	S087	磁器	陶	—	—	(2.2)	—	染付	蘭唐草	—	—	—	—	201805 000942	201805 000942
図番 34	S087	磁器	皿	(12.2)	—	(1.3)	—	染付	吹き墨	—	—	—	—	201805 000919	201805 000919
図番 35	S087	磁器	皿	(12.2)	—	(2.4)	—	染付	花青・吹き墨	—	—	—	—	201805 000943	201805 000943
図番 36	S087	磁器	皿	(12.2)	—	(1.1)	—	染付	花青・吹き墨	—	—	—	—	201805 000948	201805 000948
図番 37	S087	磁器	水鉢	—	6.2	(11.1)	—	白焼	雲龍・唐草	—	—	—	—	201805 000951	201805 000951
図番 38	S097	磁器	陶	(9.0)	5.0	8.1	—	陶	—	—	—	—	—	201805 000956	201805 000956
図番 39	S097E1	陶器	陶	12.5	5.1	7.8	—	灰焼	—	—	—	—	—	201805 000956	201805 000956
図番 40	S087	磁器	皿	(16.2)	5.1	4.3	—	灰	—	—	—	—	—	201805 000956	201805 000956
図番 41	S087E1	陶器	皿	14.8	4.6	3.2	—	灰	—	—	—	—	—	201805 000956	201805 000956

第2表 遺物観察表2

No.	遺物 No.	出土遺物	類別	形種	位置 (土層/位置)	数量 (枚/個)	高/径 (cm)	製作 技法	裝飾・装飾			用途・存在目的等	特徴	備考	登録 番号	
									内面		外面					
									内面	外面						
0006	42	S087	銅器	皿	(14.0)	4.7	3.5	灰			緑石貼 3ヶ所	党中央			201805 000234	
0006	43	S087	銅器	皿	12.8	4.4	3.5	黒			緑石貼 4ヶ所	党中央・西側	溝縁貼		201805 000235	
0006	44	S087	銅器	皿	(14.2)	5.2	3.1	透明			緑石貼 5ヶ所	党中央			201805 000236	
0006	45	S087	銅器	水鏡	—	4.1	(5.1)	灰	穿孔				点形		201805 000237	
0006	46	S087	銅器	小壺	(10.2)	4.9	10.2	黒				糸形切り	製法詳 (12.0 cm)		201805 000238	
0006	47	S087	銅器	不明	(4.3)	(2.3)	(0.4)	黒 黄銅							201805 000239	
0006	48	S087	銅器	香炉	(13.0)	(6.0)	6.5	灰		新七目		溝貼		1650~1690	201805 000240	
0006	49	S087	土器	土瓶	(14.2)	10.2	5.3			ナデ・ミガキ	ハケ目				201805 000241	
0006	50	S087H用	銅器	楕圓鉢	(9.0)	11.6	15.1	灰	ナデ・ユビオヤエ	ハケ目		糸形切り	1編部のみ無縁		201805 000242	
0006	51	S087H用	土器	壺	24.5	23.1	7.3		ナデ・ハケ目	ナデ			スス付縁		201805 000243	
0007	52	S087	土器	大鉢	(40.5)	(32.5)	12.1		ナデ・ハケ目 ヘラケズリ	ナデ・ハケ目		縁2ヶ所	縁欠け (47.0 cm)		201805 000244	
0007	53	SE118	銅器	罎	(10.0)	—	(4.2)	染付	罎					18世紀	201805 001142	
0007	54	SE118	銅器	罎	—	3.4	(4.9)	染・染付		草花					201805 001148	
0007	55	SE118	銅器	皿	(21.0)	(14.0)	3.5	染付	無縁		花卉・二重縁				201805 000245	
0007	56	SE118	銅器	仏飯鉢	(6.2)	3.5	5.9	染付	丸・無縁		丸・無縁		首付無縁		201805 001152	
0007	57	SE120	銅器	罎	(11.0)	(3.0)	4.3	染付	一重縁・無縁 直口	二重縁	寿	党中央	明塗		201805 000246	
0007	58	SE120	銅器	楕圓鉢	(20.0)	—	(5.7)	灰		新七目			1編部のみ無縁	~17世紀	201805 001259	
0007	59	SK2	銅器	罎	8.6	—	(4.9)	染付	牡丹	四方溝					201805 000247	
0007	60	SK2	銅器	罎	8.4	3.2	5.2	染付	五枝・鶴 一重縁・無縁	四方溝・二重縁 無縁	五枝花・二重縁		コンニャク印判	18世紀後半	201805 000248	
0007	61	SK2	銅器	罎	11.9	4.2	6.8	青銅染付		四方溝				コンニャク印判	201805 000249	
0007	62	SK2	銅器	段重	12.2	7.3	5.2	染付	雲龍に山水 雲龍・帆船					19世紀後半	201805 000250	
0007	63	SK2	銅器	罎	(9.0)	—	(5.6)	白							201805 000251	
0007	64	SK2	銅器	罎	8.7	—	(5.2)	黒・白							201805 000252	
0007	65	SK2	銅器	水注	7.1	3.8	3.7	灰	雲龍(7.0)・草花					18世紀後半	201805 000253	
0007	66	SK2	銅器	行明出	7.5	4.3	3.1	灰							201805 000254	
0007	67	SK2	銅器	行明出	8.5	4.0	2.8	灰							201805 000255	
0007	68	SK2	土器	行明出	—	2.5	1.8								201805 000256	
0007	69	SK2	銅器	椀鉢	(22.0)	16.8	21.8	黒	白土化粧 クサヤ職作り			罎部3ヶ所 縁成縁厚丸	高取縁		201805 000257	
0007	70	SK4	銅器	罎	9.6	4.0	5.2	染付	山水・朝陽・海			岩流			201805 000258	
0007	71	SK4	銅器	湯呑	7.2	3.8	5.6	染付	草花・輪飾		雲				201805 000259	
0007	72	SK4	銅器	湯呑	7.0	3.2	5.1	染付	雲人・雲・雲文字						201805 000260	
0007	73	SK4	銅器	湯呑	4.6	3.5	5.3	染付	牡丹・草			流	二重縁		201805 000261	
0007	74	SK4	銅器	蓋	8.7	3.6	2.4	染付	鶴・龍流	雲漢・丸縁 無縁・草花	雲文字・無縁				201805 000262	
0007	75	SK4	銅器	小壺	6.4	3.0	3.5	染付	雲・草花						201805 000263	
0007	76	SK4	銅器	皿	(13.2)	7.1	3.1	染付	無縁・雲草	無縁・二重縁	五枝花 (コンニャク印判)			くらわんか	201805 000264	
0007	77	SK4	銅器	小鉢	9.4	4.7	2.2	染付	草花		三ツアヤ風				201805 000265	
0007	78	SK4	銅器	皿	—	(12.0)	(3.3)	染付	二重縁	五文字・花・月桂樹					17世紀後半	201805 000266
0007	79	SK4	銅器	蓋	7.8	—	2.7	染付	雲龍に花卉 雲龍つまみ						201805 000267	
0007	80	SK4	銅器	蓋	8.4	—	3.4	染付	無縁・花卉 雲龍つまみ						201805 000268	
0007	81	SK4	銅器	蓋物	—	(9.0)	3.1	染付	草花・龍流・無縁						201805 000269	
0007	82	SK4	銅器	蓋物	9.2	4.8	5.4	染付	雲・草花		丸縁		1編部のみ無縁		201805 000270	
0008	83	SK4	銅器	罎	8.1	3.6	5.3	白							201805 000271	
0008	84	SK4	銅器	小台	1.4	3.1	8.8	染付	草花						201805 000272	
0008	85	SK4	銅器	蓋	(4.9)	4.3	—	染付			雲				201805 000273	
0008	86	SK4	銅器	楕圓鉢	5.6	3.5	2.4	白							201805 000274	
0008	87	SK4	銅器	水鏡	—	4.0	4.5	白	罎						201805 000275	
0008	88	SK4	銅器	罎	11.8	—	(5.8)	青銅染付		四方溝・二重縁 無縁					201805 000276	

第3表 遺物観察表3

No.	遺物 No.	出土遺構	類別	形種	位置			方位	遺跡・遺物			位置・所在(内径)	特徴	備考	目録番号
					1(柱石)	2(柱石)	3(柱石)		内径	内容	見込み				
00008	09	SK4	磁器	磁器	12.0	—	05.00	白磁	蓋輪	内径輪のみ					201805 000082
00008	90	SK4	磁器	片陶器	06.0	—	14.50	白磁	蓋(蓋輪)						201805 000083
00008	91	SK4	磁器	甕	9.6	3.1	5.0	陶							201805 000087
00008	92	SK4	磁器	甕	09.0	4.4	4.9	灰	山水						201805 000090
00008	93	SK4	磁器	甕	—	(5.6)	(3.1)	灰							201805 000090
00008	94	SK4	磁器	皿	11.6	4.4	3.1	陶	蛇ノ目輪のみ						201805 000092
00008	95	SK4	磁器	油瓶	2.1	8.6	19.3	陶							18世紀後半
00008	96	SK4	磁器	油瓶	—	9.0	(20.8)	陶	草花						201805 000094
00008	97	SK4	磁器	白口鉢	22.0	8.7	11.2	陶							201805 000099
00008	98	SK4	磁器	磁鉢	36.5	12.4	14.5	陶	紅地ナメ	ハク目					201805 000098
00008	99	SK4	磁器	榎木鉢	30.0	18.8	19.8	陶	白土化粧						201805 001100
00008	100	SK4	磁器	土瓶	5.9	—	3.9	透明							101とセット
00008	101	SK4	磁器	土瓶	7.5	7.5	10.2	透明							201805 001101
00008	102	SK4	土器	FF	11.0	6.0	1.5		ナメ	ナメ・ミガキ					201805 001109
00008	103	SK4	磁器	高直貝	6.2	—	0.5	陶							201805 000116
00008	104	SK4	瓦	平瓦	(8.7)	(6.5)	(1.7)	焼	磁制「C」						201805 000122
00008	105	SK13	磁器	甕	9.8	4.0	5.2	染付	菊・團扇・五葉草型		陶製	「大明」	くらわんか コンキヤク印		201805 000139
00008	106	SK13	磁器	甕	8.0	3.2	4.3	染付	菊・團扇		陶製		くらわんか コンキヤク印		201805 000143
00008	107	SK13	磁器	甕	8.6	3.4	4.6	染付	菊				コンキヤク印		201805 000145
00008	108	SK13	磁器	甕	7.8	3.3	5.0	染付	蓮				コンキヤク印		201805 000148
00008	109	SK13	磁器	皿	14.5	7.5	4.0	染付	牡丹・團扇 雲散輪	牡丹・二重團扇	五弁花	「大明年製」	コンキヤク印		18世紀後半 ～中頃
00008	110	SK13	磁器	皿	13.4	(8.0)	3.8	染付	牡丹・團扇	團扇・二重團扇 牡丹		「大明成化年製」 ハク目			201805 000152
00008	111	SK13	磁器	皿	(12.6)	7.2	3.1	染付	團扇	團扇・牡丹	五弁花		くらわんか コンキヤク印		201805 000156
00008	112	SK13	磁器	甕	4.0	—	(12.5)	染付	竹・雲(帯)				くらわんか		201805 000177
00008	113	SK13	磁器	花生	9.9	7.0	18.0	青磁					蟹ノ目		18世紀
00008	114	SK13	磁器	蟹型	13.5	7.3	3.1	灰	羽め蛸子						201805 000177
00008	115	SK13	磁器	仏具	7.3	3.5	4.7	染付	團扇				くらわんか		201805 000158
00008	116	SK13	磁器	鉢	11.8	6.2	4.8	白磁							201805 000172
00008	117	SK13	磁器	甕	7.6	2.9	4.6	白磁					管付輪のみ		201805 000162
00008	118	SK13	磁器	小皿	8.6	3.9	2.7	白磁							201805 000170
00008	119	SK13	磁器	箱1	5.4	3.0	3.9	白磁					管付輪のみ		201805 000166
00008	120	SK13	磁器	手取皿	(6.3)	4.6	1.5	染付	蝶				赤銅製L型		201805 000154
00008	121	SK13	磁器	小皿	5.4	3.0	3.9	白磁							201805 000164
00008	122	SK13	磁器	箱1	4.5	2.1	2.7	白磁							201805 000173
00008	123	SK13	磁器	紅土	5.7	3.8	1.1	白磁							201805 000173
00008	124	SK13	磁器	甕	10.3	4.6	7.6	陶	白土化粧・駒印	白土化粧・駒印					201805 000162
00008	125	SK13	磁器	皿	12.8	4.8	4.6	灰		管付輪					201805 000188
00008	126	SK13	磁器	香炉	(12.8)	5.6	6.3	銅製							17世紀後半 ～18世紀前半
00008	127	SK13	磁器	香炉	12.8	—	6.1	銅製 銅		流し掛け					201805 000200
00008	128	SK13	磁器	蓋物	11.8	—	4.8	陶	白土化粧・駒印						201805 000199
00008	129	SK13	磁器	灯明皿	10.5	4.8	4.4	陶							201805 000202
00008	130	SK13	磁器	灯明皿	9.0	4.8	2.1	陶							201805 000201
00008	131	SK13	磁器	鉢	(25.6)	(9.6)	9.7	陶		打割名目			管付・管口 器口2枚/白磁L型	奥田系	201805 000190
00008	132	SK13	磁器	鉢	22.4	8.9	9.0	銅製					高付筒裏面		201805 000191
00008	133	SK13	磁器	鉢	51.2	15.5	17.3	赤 磁 灰	白土化粧・駒印 流	駒印 管口付 管口付L型					201805 000193
00008	134	SK13	磁器	甕	5.6	7.7	23.2	赤 磁 灰	白土化粧・駒印						17世紀後半 ～18世紀後半
00008	135	SK13	磁器	甕	3.8	10.3	26.9	灰							201805 000194

第4表 遺物観察表4

No.	遺物No.	出土遺物	類別	形種	寸法			製作 技法	装飾・文様			特徴	備考	登録 番号					
					口径(φ)	底径(φ)	高さ(H)		内面	外面	底込み								
000001	136	SK13	銅器	皿	8.1	7.4	13.5	刷・刷				裏面底	銅器径12.6cm	17世紀後半	201805 000196				
000001	137	SK13	銅器	皿	7.8	6.6	14.7	刷・刷				裏面底	銅器径12.6cm	18世紀後半	201805 000197				
000001	138	SK13	銅器	皿	10.0	7.7	14.4	刷・刷				裏面底	銅器径14.9cm	19世紀後半	201805 000198				
000001	139	SK13	銅器	鉢	38.0	13.0	13.4	鉄	ナデ	ナデ・ハク目		赤銅り	1層部のみ磨蝕	17世紀後半	201805 000199				
000001	140	SK13	銅器	急須	7.0	8.0	10.8	刷							201805 000200				
000001	141	SK13	銅器	急須	8.0	—	4.3	刷							201805 000201				
000001	142	SK13	土器	茶碗	6.5	—	1.8	刷	ナデ	ナデ		赤色刷子・刷蝕付			201805 000216				
000001	143	SK13	土器	茶碗	6.0	5.0	7.4	刷	ナデ・コビオサエ	ナデ		赤色刷子・刷蝕付			201805 000217				
000001	144	SK13	土器	磁瓶	31.0	24.5	5.7	刷	ナデ・オサエ	ナデ		天文付			201805 000218				
000001	145	SK14	銅器	皿	10.3	3.9	5.4	染付	青・赤・黒線	黒線	二条線	大光宝珠		18世紀後半	201805 000219				
000001	146	SK14	銅器	皿	8.6	3.1	5.3	染付	黒線・牡丹唐草 彫刻・二条	黒線	二条線	十字花		18世紀後半	201805 000220				
000001	147	SK14	銅器	皿	7.6	(2)8	4.8	染付	赤・黒線	二条線	二条線		小丸	18世紀後半	201805 000221				
000001	148	SK14	銅器	皿	(9)4	(3)4	4.8	染付	草花	二条線	二条線	写写あり	写写あり	広葉	19世紀初期	201805 000224			
000001	149	SK14	銅器	煮物鉢	7.0	4.9	5.4	染付	黒・赤・二条線						18世紀?	201805 000225			
000001	150	SK14	銅器	蓋	10.1	3.9	2.9	染付	二条線・漢字 竹山人物	四方舞・二条線	二条線			「富貴長春」	19世紀～?	201805 000228			
000001	151	SK14	銅器	蓋	10.0	6.0	2.5	染付	子鳥・松・獅子						松	正徳	201805 000233		
000001	152	SK14	銅器	門懸	(7)8	—	(5)2	染付	狼の顔子・菊	二条線	二条線					201805 000236			
000001	153	SK14	銅器	皿	(7)6	—	(5)8	白磁	赤	赤						1口	201805 000237		
000001	154	SK14	銅器	皿	(5)5	—	(4)8	青磁染付		四方舞・二条線							19世紀初期	201805 000244	
000001	155	SK14	銅器	皿	—	2.9	(5)4	染付	菊・竹								19世紀	201805 000245	
000001	156	SK14	銅器	皿	1.9	3.8	10.0	染付	草花・黒線								19世紀	201805 000246	
000001	157	SK14	銅器	皿	11.0	3.8	6.0	白磁									18世紀後半	201805 000247	
000001	158	SK14	銅器	皿	8.8	3.6	5.6	色絵	牡丹・花唐草・蓮	四方舞・二条線							下ふくれ 最大径23.2cm	201805 000249	
000001	159	SK14	銅器	皿	8.8	3.3	5.2	色絵	写?								調染	京焼	201805 000250
000001	160	SK14	銅器	皿	(8)0	4.6	6.9	刷										201805 000252	
000001	161	SK24	土器	灰器	(1)8.0	(1)5.8	8.1	黄銅 泥子	ナデ・段切	ナデ								黒土 最大径19.6cm	201805 000253
000001	162	SK24上層	銅器	皿	(1)4.0	4.1	5.7	染付	草花・黒線 二条線								丸	201805 000263	
000001	163	SK24下層	銅器	皿	(1)0.0	4.0	5.2	染付	雲・草花								「大明」	コンニャク印	201805 000265
000001	164	SK24下層	銅器	皿	—	(4)2	(3)4	染付	二条線	二条線								「二成」	201805 000281
000001	165	SK24下層	銅器	皿	—	—	(5)4	染付	草花・二条線									初期伊万葉	201805 000285
000001	166	SK24下層	銅器	皿	(2)2.0	8.4	5.5	青磁染付	花内									染付部分のみ 黒土付	201805 000287
000001	167	SK24下層	銅器	皿	(8)4	3.6	5.1	刷	白土刷・刷毛目	白土刷・刷毛目								書付輪かき	201805 000288
000001	168	SK24下層	銅器	皿	—	6.0	(8)8	透明										焼付・刷毛	201805 000289
000001	169	SK24下層	銅器	皿	—	5.9	(3)4	灰焼											201805 000290
000001	170	SK24下層	銅器	火入	(1)2.0	—	(1)2.0	透明	青・五弁花 黒線・赤									三島子	201805 000291
000001	171	SK40	銅器	皿	(1)1.0	(3)8	6.0	染付	花										201805 000332
000001	172	SK40	銅器	皿	(9)0	(4)0	5.6	染付	雲・草・花										201805 000333
000001	173	SK40	銅器	皿	(2)1.0	(1)4.2	3.3	染付	牡丹唐草	黒	黒線							書付輪かき	201805 000336
000001	174	SK40	銅器	皿	(1)4.0	9.9	2.6	染付	輪	黒	二条線								201805 000340
000001	175	SK40	銅器	皿	(1)5.0	6.0	7.8	白磁											201805 000342
000001	176	SK40	銅器	皿	—	4.5	(2)1	蓋											201805 000441
000001	177	SK40	土器	火入	6.4	(4)0	5.0	灰焼	ナデ	刷毛ナデ									201805 000442
000001	178	SK40	銅器	磁鉢	33.0	11.5	11.7	焼	刷毛ナデ	刷毛ナデ・ハク目									201805 000444
000001	179	SK40	土器	磁瓶	30.6	21.5	6.8	刷	ハク目・ナデ	ハク目・ナデ									201805 000445
000001	180	SK44	銅器	小皿	7.0	2.7	3.3	染付	雲										201805 000483
000001	181	SK44	銅器	皿	(1)2.0	5.1	6.7	刷											201805 000485
000001	182	SK48	銅器	皿	10.9	4.0	5.9	染付	雲・草・花	雲	雲	雲・草・花	書付無輪	黒					201805 000523

第5表 遺物観察表5

No.	遺物 No.	出土遺物	類別	形種	寸法			製作 時期	遺跡・遺物			特徴	備考	登録 番号	
					長(単位)	幅(単位)	高さ(単位)		内容		見込み				
									外部	内部					
0011	183	SK48	磁器	碗	12.3	5.0	6.5	製作	瓦・二条陶器・陶磁	二条陶器・陶磁	瓦葺・二足ハヤ履	貫付陶磁	遺反陶		201805 000500
0011	184	SK48	磁器	湯呑	7.0	3.6	5.3	製作	石炭				1脚部陶磁		201805 000501
0011	185	SK48	磁器	碗	10.6	4.5	5.6	製作	山水・瓦葺		瓦葺	貫付陶磁	遺反陶		201805 000526
0011	186	SK48	磁器	蓋物	12.4	6.1	6.4	製作	雪・瓦葺		瓦葺・白粉はぎ		遺反陶		201805 000527
0011	187	SK48	磁器	碗蓋	9.4	(3.8)	2.7	製作	宝珠・龍・瓦	瓦・陶磁			三足ハヤ履 1脚・製法		201805 000510
0011	188	SK48	磁器	皿	13.3	8.2	4.1	製作			瓦葺		三足ハヤ履 製法		201805 000528
0011	189	SK48	磁器	皿	13.8	8.5	4.0	製作			瓦葺		貫付陶磁		201805 000531
0011	190	SK48	磁器	手巾箱	7.2	3.5	1.8	製作	よろひ目格子				貫付陶磁		201805 000525
0011	191	SK48	磁器	蓋	9.3	—	2.1	製作	陶磁・二条陶器 丸・草花丸						201805 000501
0011	192	SK48	陶器	筒	10.8	3.8	5.8	焼	瓦・陶磁						201805 000541
0011	193	SK48	陶器	筒	11.4	3.9	5.6	焼	瓦・陶磁						201805 000556
0011	194	SK48	陶器	筒	9.2	3.4	5.1	焼							201805 000511
0011	195	SK48	陶器	筒	—	4.0	2.4	筒	瓦葺	打割瓦目	瓦葺・白粉はぎ				201805 000572
0011	196	SK48	陶器	皿	—	5.4	2.2	筒							201805 000518
0011	197	SK48	陶器	皿	—	4.7	1.4	筒			瓦葺・白粉はぎ				201805 000573
0011	198	SK48	陶器	蓋	(9.0)	—	1.1	透明							201805 000543
0011	199	SK48	陶器	蓋	9.0	—	1.2	透明							201805 000558
0011	200	SK48	陶器	蓋物	9.2	6.1	5.1	透明							201805 000502
0011	201	SK48	陶器	瓦葺地刺	4.2	9.5	25.2	瓦	「蓮丸」「新」						201805 000502
0011	202	SK49	陶器	筒	10.8	4.4	6.2	製作	二条陶器 陶磁・草花						201805 000575
0011	203	SK49	磁器	筒	9.2	3.2	4.6	白磁							201805 000578
0011	204	SK49	陶器	筒	12.1	4.7	6.0	白土化粧	朝毛目	朝毛目	筒中				201805 000552
0011	205	SK49	陶器	皿	7.0	4.6	2.5	銅製			瓦葺・白粉はぎ	高台陶磁			201805 000590
0011	206	SK50-51	磁器	皿	(2.86)	(7.2)	(3.1)	製作			貫・蓮葉	貫付陶磁	型押し・染筆 透かし	19世紀前半	201805 000600
0011	207	SK50-51	磁器	皿	—	(11.2)	(3.8)	製作	陶磁・二条陶器 酒器	朝毛目・二条陶器	五弁花	貫付陶磁	型押し	18世紀前半 ～中頃	201805 000599
0011	208	SK50-51	磁器	皿	(0.42)	(8.4)	4.3	製作	陶磁・陶磁 陶磁	瓦葺・朝毛目 草花	瓦葺・朝毛目 草花				201805 000600
0011	209	SK50	陶器	皿	(8.0)	(3.8)	5.0	筒	白土化粧・朝毛目	白土化粧・朝毛目					201805 000613
0011	210	SK50下層	磁器	鉢	10.1	4.3	6.3	白磁							201805 000676
0011	211	SK50 西平下層	磁器	筒	(9.3)	4.1	5.5	製作	白・草花・二条陶器	二条陶器					201805 000674
0011	212	SK50上層	磁器	筒	9.7	4.2	5.2	製作	瓦						201805 000669
0011	213	SK50下層	磁器	筒	(8.0)	(3.0)	4.3	製作	陶磁・二条陶器 山水陶磁?						201805 000677
0011	214	SK50下層	磁器	第1	6.6	3.6	4.6	白磁			白粉・藤				201805 000681
0011	215	SK50下層	磁器	第1	6.0	2.9	4.4	白磁							201805 000680
0011	216	SK50下層	磁器	皿	20.4	(12.4)	3.1	製作	陶磁	葉・雲龍に草花	陶磁				201805 000663
0011	217	SK50下層	磁器	皿	10.5	6.5	2.0	製作	陶磁・二条陶器	陶磁	松				201805 000678
0011	218	SK50下層	磁器	鉢	—	—	(3.8)	製作	瓦						201805 000679
0011	219	SK50上層	磁器	瓶	—	—	(5.7)	製作	草花・白磁						201805 000657
0011	220	SK50中層	磁器	蓋	(5.4)	2.0	2.8	色絵	草花						201805 000664
0011	221	SK50下層	陶器	筒	16.3	4.0	5.8	透明	石炭						201805 000683
0011	222	SK50下層	陶器	筒	9.3	4.8	5.0	透明	草						201805 000684
0011	223	SK50下層	陶器	筒	12.0	4.2	5.2	筒	白土化粧・朝毛目	草草・朝毛目					201805 000685
0011	224	SK50下層	陶器	筒	10.8	4.4	6.4	銅製・赤							201805 000686
0011	225	SK50下層	陶器	小碗	6.4	2.6	2.7	赤							201805 000688
0011	226	SK50下層	陶器	小碗	6.6	2.6	3.4	赤							201805 000687
0011	227	SK50下層	陶器	皿	13.4	5.1	3.7	瓦・銅製			瓦葺・白粉はぎ				201805 000689
0011	228	SK50下層	陶器	鉢	29.0	11.8	9.5	灰焼	朝毛目						201805 000713
0011	229	SK67	磁器	筒	—	5.2	(5.6)	製作	草花・陶磁		二条・五弁花	瓦葺あり			201805 000735

第6表 遺物観察表6

No.	遺物No.	出土遺構	類別	形種	位置			埋付 深さ	遺跡・遺構			位置・高台内位置	特徴	備考	登録 番号
					柱石(長)	柱石(高)	基高(厚)		内庭	内庭	見込み				
0014-230	SK07	磁器	罎	0.0(0)	5.8	5.0	埋付	二重障壁・ 溝敷・西宮			埋中・堀ノ目高台	砂目面	17世紀前期	201805 000737	
0014-231	SK07	瓦葺	葺物葺	0.4(0)	—	5.4	埋	前毛目						201805 000738	
0014-232	SK75	磁器	罎	11.7	4.5	6.4	埋付	堀・溝敷			借付無縁	丸堀	17世紀後半	201805 000774	
0014-233	SK75	磁器	罎	11.0	4.5	6.3	埋付	草花			借付無縁	丸堀	17世紀後半	201805 000775	
0014-234	SK75	磁器	罎	10.2	4.3	5.8	埋付	溝敷・二重障壁 土樋石・草花・草花			借付無縁	溝敷	18世紀—	201805 000772	
0014-235	SK75	磁器	罎	0.4(0)	(5.2)	6.3	埋付	堀口・溝敷 溝敷	堀口・二重障壁		高台内無縁	高付(堀ノ目より 10cm高)	17世紀後半	201805 000776	
0014-236	SK75	磁器	小碗	(7.2)	(3.2)	4.6	埋付	山水・溝敷 溝敷			砂目面		17世紀後半	201805 000778	
0014-237	SK75	磁器	皿	0.3(4)	(5.0)	3.7	埋付	堀	堀					201805 000729	
0014-238	SK75	磁器	皿	0.0(0)	—	(3.0)	埋付	草?	高?					201805 000783	
0014-239	SK75	磁器	皿	1.38	8.2	2.5	埋付		二重障壁・草・草				18世紀中期	201805 000784	
0014-240	SK75	磁器	花生	—	6.4	(12.3)	埋付	花付	溝敷		高台内無縁	堀ノ目高台		201805 000781	
0014-241	SK75	磁器	花生	0.0(0)	—	(12.0)	埋付	草花	溝敷			竹形・堀ノ目花生 草花		201805 000782	
0014-242	SK75	磁器	罎	14.8	5.0	5.2	色絵		堀	堀ノ目堀ノ目				201805 000789	
0014-243	SK75	磁器	罎	0.0(0)	4.2	5.6	色絵	巴	巴				18世紀—	201805 000788	
0014-244	SK75	磁器	罎	10.4	4.0	6.6	白磁							201805 000812	
0014-245	SK75	磁器	罎	1(6.4)	3.6	4.6	白磁	白磁・溝					17世紀— 18世紀後半	201805 000785	
0014-246	SK75	磁器	罎	0.6	4.9	6.3	灰							201805 000790	
0014-247	SK75	瓦葺	葺	0.1(0)	4.5	6.8	透明				埋中	堀ノ目・堀内系	17世紀末	201805 000791	
0014-248	SK75	瓦葺	葺	0.6(4)	10.9	—	灰・陶 葺	前毛目	前毛目		溝敷 ダンゴ土面層埋付			201805 000800	
0014-249	SK75	瓦葺	葺	—	—	(8.2)	埋		ハケ目					201805 000792	
0014-250	SK75	土器類	打割出	8.9	4.2	1.9	浅溝敷	ナ字	ナ字		高切り	溝敷付葺		201805 000801	
0014-251	SK82	磁器	罎	10.2	4.2	7.9	埋付	溝敷・堀・堀			埋中・高台無縁 砂目面		17世紀前半	201805 000806	
0014-252	SK82	磁器	罎	10.4	4.2	6.2	白磁							201805 000875	
0014-253	SK82	磁器	罎	20.6	0.1(4)	4.2	色絵	牡丹唐草	色絵		高台無縁	堀付埋中 (堀・堀内系)		201805 000883	
0014-254	SK82	磁器	皿	13.1	4.8	3.0	埋付	堀・高台・高台無縁			埋中・砂目面		17世紀	201805 000873	
0014-255	SK82	磁器	皿	0.3(4)	4.7	3.0	青磁				砂目面・埋中 高台無縁		17世紀	201805 000878	
0014-256	SK82	磁器	罎	11.2	4.5	7.0	蓋灰				埋中・砂目面		17世紀	201805 000880	
0014-257	SK82	瓦葺	葺	14.0	4.7	3.0	蓋灰				砂目面3か所			201805 000882	
0014-258	SK82	瓦葺	大鉢	(5.4)	—	(4.8)	瓦葺	丸形9付付	前毛目				18世紀?	201805 000885	
0014-259	SK82	瓦葺	蓋	5.8	3.4	2.7	埋	無縁						201805 000887	
0014-260	SK82	瓦葺	鉢	(5.0)	(12.0)	(5.3)	瓦石	溝敷			堀ノ目高台	志野焼	16世紀後半 ~17世紀前期	201805 000888	
0014-261	SK82	瓦葺	蓋	33.3	10.0	14.1	堀・溝	ハケ目			堀中・高台無縁	1層堀の中無縁		201805 000887	
0014-262	SK111	磁器	陶器	0(0)	(4.0)	2.9	埋付	堀・堀子・二重障壁	格子	格子	借付無縁	堀内堀	19世紀後半	201805 001046	
0014-263	SK111	磁器	罎	0(2)	4.1	4.7	埋付	二重障壁・溝敷	溝敷・草花		借付無縁	堀内堀		201805 001045	
0014-264	SK111	磁器	湯呑	0(0)	3.1	5.2	埋付	堀			借付無縁		19世紀	201805 001047	
0014-265	SK111	磁器	小碗	0(4)	(2.0)	3.3	埋付	溝敷	二重障壁	山水唐草? 二重障壁	砂目面			201805 001044	
0014-266	SK111	磁器	罎	1.6	3.4	10.7	埋付	草花・溝敷			砂目面	堀ノ目高台	19世紀	201805 001050	
0014-267	SK111	磁器	段重	1.54	(10.4)	5.8	埋付	牡丹唐草・竹						201805 001051	
0014-268	SK111	瓦葺	葺	—	—	(3.1)	埋		白土化粧・前毛目					201805 001058	
0014-269	SK113	磁器	罎	14.0	4.3	5.1	埋付	山水・東院・溝	青磁		高台無縁	三層ハマ堀 堀内堀		201805 001059	
0014-270	SK113	磁器	湯呑	7.2	3.6	5.4	埋付	堀・溝			借付無縁			201805 001075	
0014-271	SK113	磁器	湯呑	7.3	3.2	5.4	埋付	溝九・溝敷			借付無縁			201805 001076	
0014-272	SK113	磁器	蓋	6.0	3.2	4.5	埋付	堀・堀			借付無縁			201805 001083	
0014-273	SK113	磁器	皿	8.6	5.5	2.0	埋				借付無縁	堀付		201805 001113	
0014-274	SK113	磁器	打割	0(0)	3.1	5.2	白磁				無縁	堀付・堀付		201805 001052	
0014-275	SK113	磁器	葺物葺	10.0	—	2.8	埋付	二重障壁・溝敷 堀・堀	溝敷・堀ノ目高台			堀付ノ高台 1層堀		201805 001060	
0014-276	SK113	磁器	葺物葺	9.8	—	2.4	埋付	二重障壁・堀敷 溝敷・堀	溝敷・堀ノ目高台			1層堀		201805 001063	

第7表 遺物観察表7

No.	遺物 No.	出土遺構	類別	形種	位置			埋付 深さ	遺跡・遺物			位置・高台内位置	特徴	備考	登録 番号
					E(北)	N(南)	H(高)		遺跡・遺物		見込み				
									内面	外面					
0014	277	SK13	磁器	蓋物	9.7	5.2	6.0	埋付	陶器・漆器・銅器 付随品・土器類					201805 001092	
0014	278	SK13	磁器	蓋物	9.8	4.8	5.3	埋付	漆・漆子・二重陶器					201805 001093	
0014	279	SK13	磁器	甕	18.8	—	5.8	透明	ヘラ切り					201805 001102	
0014	280	SK13	陶器	甕	6.7	2.9	4.3	銅胎	陶胎					201805 001101	
0014	281	SK13	陶器	甕	7.2	3.3	5.6	蓋瓦				甕中・埋付無施	貫入	201805 001100	
0014	282	SK13	陶器	皿	19.09	19.8	3.7	瓦						201805 001105	
0014	283	SK13	陶器	瓶	3.2	6.8	19.0	瓦						201805 001105	
0014	284	SK13	陶器	埴利	—	5.9	19.2	瓦・透明						201805 001115	
0014	285	SK13	陶器	瓶・土器類	最大径 14.0	9.4	18.6	瓦	「通六」「新瓦」					201805 001112	
0014	286	SK19	磁器	甕蓋	19.2	13.4	2.9	埋付	花丹	二重陶器	陶胎			201805 001163	
0014	287	SK19	磁器	甕	10.4	4.4	5.5	埋付	花丹・丸腰石 髹・陶胎	二重陶器	陶胎・石皮			201805 001161	
0014	288	SK19	陶器	甕	10.8	4.4	5.9	埋付	格子・二重陶器					201805 001162	
0014	289	SK19	磁器	湯呑	7.0	3.6	5.4	埋付	格子・二重陶器					201805 001172	
0014	290	SK19	磁器	皿	13.2	8.8	3.6	埋付			髹	二重陶器・山水	蛇ノ目型高台付	三足ハヤ蓋	201805 001174
0014	291	SK19	陶器	土瓶	8.6	7.3	11.5	透明	草花					201805 001194	
0014	292	SK19	陶器	瓶・土器類	—	8.1	17.5	瓦	「通六」「石瓦」					201805 001193	
0014	293	SK19	陶器	蓋皿具	3.8	5.4	3.7	瓦	ナデ					201805 001201	
0014	294	SK19	土器類	甕	15.4	15.0	6.3	浅埋付	羽板ナデ・ナデ	羽板ナデ				201805 001195	
0014	295	SK121	磁器	蓋皿	8.4	3.4	2.8	埋付	松・髹	羽板				201805 001217	
0014	296	SK121	磁器	小甕	7.4	3.1	3.5	埋付	髹・二重陶器					201805 001218	
0014	297	SK121	磁器	手塩皿	8.5	4.4	2.3	埋付						201805 001223	
0014	298	SK121	磁器	段車	15.6	15.0	2.2	色絵	陶胎・花丹・新瓦					201805 001224	
0014	299	SK121	磁器	蓋物	9.3	4.5	4.9	埋付	髹・安房・陶胎 二重陶器					201805 001226	
0014	300	SK121	磁器	埴利	13.0	5.8	6.5	埋付	文字					201805 001225	
0014	301	SK121	磁器	埴利	4.1	—	23.8	透明	髹					201805 001235	
0014	302	SK121	磁器	土瓶	9.3	7.9	9.8	瓦	竹					201805 001233	
0014	303	SK121	土器類	砂埴	24.1	18.7	16.1	浅埋付	ヘラケズリ・ナデ	ナデ				201805 001203	
0014	304	SK121	陶器	行平網蓋	4.5	17.4	3.8	瓦・瓦	瓦胎・白土化新					201805 001224	
0014	305	SK121	陶器	行平網蓋	1.6	7.5	11.1	瓦・瓦	陶胎					201805 001233	
0014	306	SK121	土器類	砂埴	23.8	23.2	19.7	赤陶	髹(埋付)・ナデ	ナデ・ヘラケ目 ヘラ切り				201805 001301	
0014	307	SK124	磁器	甕	10.1	4.4	5.6	埋付	髹・髹・色 陶胎・二重陶器					201805 001262	
0014	308	SK124	陶器	甕	11.2	4.6	6.5	埋付	花丹・髹					201805 001264	
0014	309	SK124	磁器	甕	8.7	3.8	5.2	埋付	髹付・髹子 二重陶器・陶胎					201805 001264	
0014	310	SK124	磁器	甕	9.9	4.3	5.4	埋付	髹・紅瓦 二重陶器・瓦?					201805 001261	
0014	311	SK124	磁器	蓋	6.5	2.9	3.1	埋付	髹・二重陶器・陶胎					201805 001266	
0014	312	SK124	磁器	蓋	6.6	3.1	2.8	埋付	山水陶器					201805 001265	
0014	313	SK124	磁器	埴利	13.0	—	16.6	埋付	髹・花丹 二重陶器	花丹				201805 001271	
0014	314	SK124	陶器	甕	19.4	4.2	6.5	透明						201805 001278	
0014	315	SK124	陶器	甕	19.0	3.7	5.3	瓦	白土化新・新瓦	白土化新・新瓦				201805 001278	
0014	316	SK124	陶器	小甕	6.7	3.4	4.4	瓦						201805 001285	
0014	317	SK124	陶器	皿	12.7	4.8	3.5	瓦・新瓦						201805 001281	
0014	318	SK124	陶器	行明皿	11.4	3.6	2.5	瓦						201805 001282	
0014	319	SK124	陶器	行明皿	—	10.5	2.1	瓦						201805 001283	
0014	320	SK124	土器類	行明皿	13.2	6.2	2.8	浅埋付	羽板ナデ	ナデ				201805 001284	
0014	321	SK124	土器類	行明皿	9.0	4.4	2.0	浅埋付	羽板ナデ	ナデ				201805 001287	
0014	322	SK124	土器類	砂埴	18.2	—	2.1	瓦	羽板ナデ	赤目・ナデ				201805 001291	
0014	323	SK124	土器類	砂埴	5.4	3.5	6.1	瓦	羽板ナデ	赤目・ナデ・オヤヒ				201805 001289	

第8表 遺物観察表8

No.	遺物No.	出土遺構	種類	形種	位置 (1区画)	位置 (2区画)	位置 (3区画)	埋付 状態	内容			状態・保存内容	特徴	備考	登録 番号
									外部	内部	底込				
004-14-324	SK124	1区画	坪	0.42	8.0	2.4	遺物・土	銅板ナデ	ナデ		瓦片等	内蓋り、粘土葺		201805 001263	
004-14-325	SK124	埋付	銅	銅板ナデ	9.3	(23.6)	瓦・銅	銅板ナデ					17世紀後半 ～18世紀	201805 001264	
004-14-326	SK124	3区画	大鉢	32.6	23.3	11.4	瓦片	ナデ・ハク目	ハク目・ナデ					201805 001266	
004-14-327	SK126	埋付	銅	銅	11.6	4.6	6.0	銅・瓦・二重銅板	銅板・瓦				17世紀後半	201805 001267	
004-14-328	SK126	埋付	銅	銅	18.2	4.2	6.3	銅	銅・瓦・銅板	二重銅板			17世紀?	201805 001304	
004-14-329	SK126	埋付	銅	銅	6.4	3.3	1.1	銅			草花・銅板	砂目銅	輪花皿	17世紀中頃?	201805 001305
004-14-330	SK127	埋付	銅	銅	8.6	3.3	2.7	銅	花弁・銅		瓦葺	銅反輪	銅反輪	201805 001312	
004-14-331	SK127	埋付	銅	銅	7.8	5.2	6.6	銅	赤心丸形等・遺付銅板・瓦	西方溝		銅板・(瓦・化年製)		19世紀後半	201805 001313
004-14-332	SK127	埋付	銅	銅	7.4	3.2	2.5	銅	竹田・草・瓦・銅					201805 001315	
004-14-333	SK127	埋付	銅	銅	7.8	6.9	3.2	銅	銅丸・瓦・竹					201805 001316	
004-14-334	SK127	埋付	銅	小皿	17.7	4.0	1.8	青銅						201805 001319	
004-14-335	SK127	埋付	銅	小皿	—	4.0	5.6	瓦・銅						201805 001320	
004-14-336	SK127	埋付	ハマ	ハマ	6.6	—	1.3	銅板	ナデ			三星	色調・形	201805 001331	
004-14-337	SK127	埋付	ハマ	ハマ	6.0	—	1.4	銅板	ナデ・彫刻「一」			三星	色調・赤銅	201805 001332	
004-14-338	SK127	埋付	ハマ	ハマ	6.2	—	2.0	銅板	ナデ・彫刻「一」			三星	色調・浅黄銅	201805 001333	
004-14-339	SK127	埋付	銅	銅	9.7	4.0	2.9	銅	銅板・銅板	太田石・二重銅板	銅板・銅板	二重方形変形字	埋反輪	201805 001335	
004-17-340	SK130	埋付	銅	銅	10.8	4.3	6.0	銅	銅板・瓦・竹片等 瓦・遺付・銅板	銅板	銅板	銅板・銅板		201805 001342	
004-17-341	SK130	埋付	銅	銅	9.0	3.8	3.0	銅	竹片等・竹	雲	変形字、色性梅	銅反輪	表面漆	1820～	201805 001343
004-17-342	SK130	埋付	銅	銅	10.2	4.1	5.8	銅	竹片等・竹 二重銅板・遺付	雲	色性梅	銅反輪	表面漆	1820～	201805 001343
004-17-343	SK130	埋付	銅	銅	10.9	4.7	5.8	銅	花弁	竹葺				201805 001350	
004-17-344	SK130	埋付	銅	銅	10.5	4.3	5.6	銅	銅板・銅丸	二重銅板	銅板	銅板・銅反輪	埋反輪	201805 001338	
004-17-345	SK130	埋付	銅	銅	8.2	4.7	7.1	銅	雲・山水・家屋 遺付・雲	雲	変形字	二重銅板		201805 001351	
004-17-346	SK130	埋付	銅	銅	6.8	3.5	5.7	銅	山水・家屋					201805 001357	
004-17-347	SK130	埋付	銅	銅	8.9	3.9	4.5	銅	雲・竹・二重銅板	二重銅板	雲	銅反輪		201805 001358	
004-17-348	SK130	埋付	銅	銅	6.9	2.9	3.9	銅	竹・草・瓦					201805 001362	
004-17-349	SK130	埋付	銅	銅	6.2	2.6	2.9	銅	竹					201805 001374	
004-17-350	SK130	埋付	銅	銅	10.2	4.8	2.8	銅		山水・雲 家屋・銅瓦・酒				201805 001367	
004-17-351	SK130	埋付	銅	銅	6.4	3.0	2.9	銅	色輪	雲・山水				201805 001365	
004-17-352	SK130	埋付	手塩出	銅	8.2	3.9	2.4	銅		薄丸				201805 001368	
004-17-353	SK130	埋付	手塩出	銅	7.7	4.0	1.7	銅		雲・葉子・二重銅板	不明			201805 001364	
004-17-354	SK130	埋付	銅	銅	—	—	0.0	銅	銅板等・銅板	銅板				201805 001373	
004-17-355	SK130	埋付	銅	銅	7.9	9.0	3.0	銅	二重銅板・銅	二重銅板・銅				201805 001375	
004-17-356	SK130	埋付	銅	銅	0.30	—	2.2	銅	色輪					201805 001374	
004-17-357	SK130	埋付	銅	銅	0.8	(5.4)	3.4	色輪						201805 001382	
004-17-358	SK130	埋付	銅	銅	0.49	(18.2)	4.7	銅	漆器	銅子・竹片	銅反輪	漆器 ハク目化年製	19世紀末	201805 001365	
004-17-359	SK130	埋付	銅	銅	23.5	13.4	3.8	銅	銅板・瓦水	瓦	銅反輪			19世紀末	201805 001366
004-17-360	SK130	埋付	銅	銅	11.3	4.7	5.4	銅		蛇子目輪はぎ				201805 001383	
004-17-361	SK130	埋付	銅	銅	9.4	3.5	5.0	瓦		銅反輪はぎ	三星ハマ	銅反輪		201805 001388	
004-17-362	SK130	埋付	銅	銅	8.8	3.8	5.2	瓦		白土化等・銅瓦				201805 001386	
004-17-363	SK130	埋付	銅	銅	—	3.7	14.6	瓦	カイラギ	カイラギ				201805 001387	
004-17-364	SK130	埋付	銅	銅	6.0	3.3	5.6	瓦	不明・銅瓦					201805 001391	
004-17-365	SK130	埋付	銅	銅	12.8	4.5	3.6	透明		銅反輪	蛇子目輪はぎ	高台銅板・雲		18世紀	201805 001392
004-17-366	SK130	埋付	銅	銅	6.8	5.5	11.4	瓦						201805 001415	
004-17-367	SK130	埋付	銅	銅	—	5.1	(13.6)	瓦	足輪・銅板					201805 001417	
004-17-368	SK130	埋付	銅	銅	5.2	7.6	21.8	瓦・銅・瓦	銅瓦目・銅瓦					201805 001394	
004-17-369	SK130	埋付	銅	銅	10.8	3.9	1.9	瓦	銅板ハク目ナデ	ハク目				201805 001414	
004-17-370	SK130	埋付	銅	銅	4.0	2.8	3.8	瓦						201805 001416	

第10表 遺物観察表10

No.	遺物 No.	出土遺物 類別	形種	寸法			出土 層位	遺物 観察	遺跡・遺物			特徴	備考	登録 番号
				口径(長)	底径(幅)	高さ(厚)			内面	外面	見込み			
0001	418	SK49	磁器	ヒノヤク土器	4.1	2.0	2.0	白磁						201805 000386
0001	419	SK2	土器	人形	—	2.3	3.3		ナデ			横江歩 登久・藤江由		201805 000387
0001	420	SK4	土器	人形	15.80	14.00	1.7		ナデ・ユビオサエ ヘラウズリ			横		201805 000388
0001	421	SK68焼物	土器	人形	4.7	3.5	4.0		ナデ・オサエ ヘラウズリ			横		201805 000389
0001	422	SK110	土器	人形	5.3	2.8	—		ヘラウズリ・ナデ ナデ・オサエ			横		201805 000390
0001	423	SK50	土器	人形	3.1	5.1	—		ナデ・オサエ ヘラウズリ			馬・酒器のみ残存		201805 000017
0001	424	SK75	土器	人形	6.0	7.0	6.1		オサエ・ヘラウズリ			人形土馬		201805 000606
0001	425	SK81	土器	人形	16.50	13.00	11.70		ナデ・ヘラウズリ					201805 000607
0001	426	SK59	土器	土鈴	4.0	2.9	—		ナデ・ヘラウズリ	ナデリヤ		赤		201805 000608
0001	427	SD39	土器	土鈴	7.6	7.8	12.20		ナデ・ヘラウズリ	編ナデ・オサエ		緑ウズリ・赤色灰子		201805 000431
0001	428	SK113	石器	磨石	面径2.1	0.4	英					赤土4.0g		201805 000609
0001	429	SK124	石器	磨石	面径2.1	0.5	英					赤土4.0g		201805 001268
0001	430	SK111	土器	円形磁器	面径2.0	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001269
0001	431	SK113	土器	円形磁器	面径2.1	0.5	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001114
0001	432	SK121	土器	円形磁器	面径2.2	0.5	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001270
0001	433	SK121	土器	円形磁器	面径2.0	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001237
0001	434	SK121	土器	円形磁器	面径2.2	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001238
0001	435	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.5	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001239
0001	436	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001240
0001	437	SK121	土器	円形磁器	面径2.0	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001241
0001	438	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001242
0001	439	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001243
0001	440	SK121	土器	円形磁器	面径2.0	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001244
0001	441	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001245
0001	442	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.6	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001246
0001	443	SK121	土器	円形磁器	面径2.1	0.5	磁	ナデ・ユビオサエ				鉄石・赤土2.0g		201805 001247
0001	444	SK70	石器	鏡	径0.25	8.4	1.5		金メッキ	金メッキ				201805 000767
0001	445	SK124	石器	磨石	1.41	3.7	1.4					赤土172.0g		201805 001291
0001	446	SK2	銅器	鏡	面径2.3	0.1						青銅鑑定 赤土2.0g		201805 001523
0001	447	SK13	銅器	鏡	面径1.9	0.1						赤土1.0g		201805 001545
0001	448	SK14	銅器	鏡	面径2.3	0.2						青銅鑑定 赤土2.0g		201805 001551
0001	449	SK59焼物	土器	鏡	面径2.2	1.5						土鏡・赤土1.0g 赤土1.0g		201805 001589
0001	450	SK59焼物	土器	鏡	面径2.2	1.5						土鏡・赤土1.0g 赤土1.0g		201805 001589
0001	451	SK4	銅器	鏡 (磨石)	1.4	0.9	6.0					阿蘇型・赤土6.0g		201805 001537
0001	452	SK119	銅器	鏡 (磨石)	1.3	0.9	4.5					阿蘇型		201805 001615
0001	453	SK113	銅器	鏡 (磨石)	1.0	1.0	4.0					少分磨 赤土0.0g		201805 001642
0001	454	SK14	銅器	鏡 (磨石)	1.3	0.4	5.2					赤土0.0g		201805 001549
0001	455	SK07	銅器	鏡 (磨石)	0.9	0.4	5.7					少分磨 赤土4.0g		201805 001583
0001	456	SK113	銅器	鏡 (磨石)	1.0	0.7	4.0					赤土0.0g		201805 000643
0001	457	SD87	銅器	鏡 子丸	14.30	13.20	0.1					「土鏡型鏡」(江民用大鏡)・鏡物		201805 001587
0001	458	SK2	銅器	鏡 片	29.00	—	15.50					赤土4.0g		201805 001248
0001	459	SK03	銅器	丸刀	15.50	2.0	4.2							1982.1.10 榊原 201805 001601
0001	460	SK03	銅器	丸刀	13.80	2.2	4.7							1981.1.10 榊原 201805 001602
0001	461	SK03	銅器	丸刀	17.50	1.0	2.8							201805 001603
0001	462	SD30	銅器	玉	直径1.2							赤土12.0g		201805 001253
0001	463	SK48	銅器	玉	直径1.2							赤土12.0g		201805 001572
0001	464	SK48	銅器	玉	直径1.0							赤土8.0g		201805 001573
0001	465	SK113	銅器	玉	直径1.4	1.0						磨乳赤 赤土14.0g		201805 001609

IV. 総 括

1. 遺構の変遷について

今回の発掘調査では、近世の溝 19 条・井戸 2 基・土坑 105 基・不明遺構 1 基・ピット多数を検出した。第 19 図は、今回の調査で検出した主要遺構を時期ごとに色分けしたものである。

本調査で最も古いのは S D 87 である。溝の床面からは初期伊万里碗や陶器の溝縁皿が出土しており、17 世紀前半から中頃と考えられる。その他に 17 世紀代のものとしては、S D 20・39・41、S E 118、S K 32・82・126 がある。18 世紀に入ると、遺構の数も増え、規模も大きくなる。S K 59 は 18 世紀前半の土坑であるが、長さ 3 m を超え、深さも 1.2 m を測る。今回の調査で最も多かったのが、19 世紀後半の遺構である。調査区全体に広がっており、出土遺物の量も他の時期と比較して多い。

2. 屋敷の土地利用について

今回の調査では、調査区が 2 軒の屋敷地をまたぐことから屋敷境に関する施設が検出されることが期待された。調査では、調査区の中央部西寄りに溝が集中して検出された。これらの溝は全て南北に走っており、古いものは 17 世紀前半から新しいものは 19 世紀後半まで及んでいる。これらの成果をもとに、久留米市都市計画図と『天保年間久留米城下図』における屋敷割りを重ね合わせた（第 19 図）。その結果、屋敷割りの屋敷境は S D 18・77・87 と合致し、北部の調査区でもその続きが確認されている。これらの西側でも同方向に走る溝が様々な時期に確認されていることから、踏襲されながら屋敷境を区画されていたことが窺える。



第 18 図 都市計画図・天保年間久留米城下図・溝状遺構の合成図（1/1,500）

3. 屋敷の居住者について

当該屋敷地の居住者は、『延寶八年久留米市街図』によると、四宮市右衛門と田尻次郎右衛門で、『天保年間久留米城下図』・『安政二年改旧廓図』・『明治二年旧郭図』によると、井上弥左衛門と加藤郷藏である。

四宮と田尻は、寛文分限帳にて名前を確認することができる。四宮市右衛門は御馬廻の「三番室田左京組」に属し、300 石を賜り、鉄砲 1 挺、長柄 1 本、指物 1 本を許されている。田尻次郎右衛門も、四宮と同じく御馬廻である。五番 渡瀬将監組に属し、耕作検見役に就いていた。220 石を賜り、持物は長柄 1 本、指物 1 本と記される。

井上弥左衛門

井上家はもともと肥後熊本藩主加藤清正に仕えており、加藤家が没落した後は泉州堺へと移り住み、その後福岡藩黒田家に槍術で仕えていた。黒田藩を依頼浪人となったあとは、6代藩主有馬則維によって召し抱えられた。その後も、代々槍術に勤しみ、褒美や俸禄の増加が確認できる。井上弥左衛門照算は槍術「妙見自得流」の師範である。槍術家として名を轟かせ、全国より数百人もの門下生が集まってきたという。幼いころから武術に長けており、文政8（1825）年には槍術に精励したことを称えられ三人扶持を賜っている。天保3（1832）年にはさらに二人扶持を加えられ、同8（1837）年には御馬廻組に列し、七人扶持へと増えられている。同10（1839）年に150石の家督を継いだあとには、槍術師範役となり、弘化3（1846）年には50石増え、計200石を賜っている。同年の『手鑑』には、「師範役」の項に「天子正師範役 毎才300目大小性格 井上弥左衛門 自得流」と見られ、毎年300目賜っていたことがわかる。嘉永5（1852）年には御使番格、安政5（1858）年には御側物頭格、慶応元（1865）年には御徒士頭格に配されている。『文久2年久留米藩分限帳 御手廻並嫡子分限帳』では、「御側弓鉄砲頭」「指物金馬蘭下四生、尤染色等勝手次第外ハ知行当り」という記述がみられる。幕末期の第二次長州征伐の際には徒士隊の指揮者として出陣し、戊辰戦争の際には京都周辺の警備のために大砲隊を率いた。明治2（1869）年には五等師範役となり、翌年にはその役を退いている。照算は明治14（1881）年5月に没したが、明治26（1893）年12月に門下生らによって篠山神社境内に記念碑が設置されている。今回の調査で出土した遺物のなかで、彼に関連したものがある。それは、SK130から出土した陶器の徳利であり、槍を持つ人物と「槍持ちの尚振り立つ流時雨哉」という俳句が描かれている。

加藤郷藏

御家中略系譜によれば、加藤家は2代目九右衛門が有馬入城に伴って福知山から来たことに始まり、600石を賜っていた。その子九右衛門一道は、元和10（1624）年に御馬廻組と200石の跡目を継ぎ、『有馬御陣御家中御扶持方帳』によれば「上下七人 三石壺斗五升」とあり、島原の乱にも出陣している。承応3（1654）には御水主裁判として水主ら300人を預かっていたほか、寛文6（1670）年に大阪在番、寛文10（1674）年に大坂御留守居役および御使番役に就き、同13年に100石加恩され、300石を賜っていた。3代目加助も御使番役や大坂御留守居役、長崎間役に着任している。その後、4代目九右衛門以降はたて続きに病死があり、養子をとっている。その後、他家の人間によって2度家名が立てられている。2度目に家名を立てた10代目加助の子こそ、加藤郷藏である。御家中略系譜によれば、文政8（1825）年に150石および御馬廻並の跡目を継いでいる。弘化3（1846）年『手鑑』には、御馬廻組の六番組に名前を確認することができる。

参考文献

- 久留米市史編さん委員会編「米府紀事略巻之三 寛文分限帳 但、御馬廻以上」
「米府紀事略巻之三 寛永御家中分限帳 但、御馬廻以上」
「米府紀事略巻之十八 文政十一年八月大風且出火一件覽」『久留米市史』第9巻 資料編 近世II
藤原正一 1981『久留米人物誌』久留米人物誌刊行委員会
戸田勘吉 1895『久留米小史』巻廿一 五葉（1974年復刻）
御家中略系譜



第 19 図 十間屋敷遺跡第 10 次調査主要遺構時期変遷図 (1/150)

写真図版



(1) 調査区全景 (東上空から)



(2) 北調査区 (南から)



(3) 調査区から通町を望む (南から)



(4) 調査区西側断面 (東から)



(5) SD3・31 完翻状況 (北から)

図版 2



(1) S D 7・37 完掘状況 (南から)



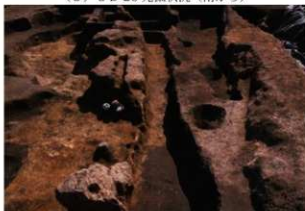
(2) S D 11 完掘状況 (南から)



(3) S D 20 完掘状況 (南から)



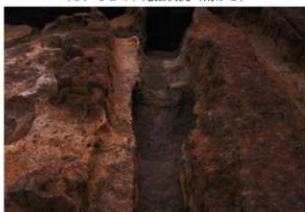
(4) S D 41 完掘状況 (南から)



(5) S D 77 完掘状況 (南から)



(6) S D 87 南壁断面 (北から)



(7) S D 87 完掘状況 (北から)



(8) S E 118 完掘状況 (南から)



(1) S E 120 断面 (北から)



(2) S K 2 遺物出土状況 (南から)



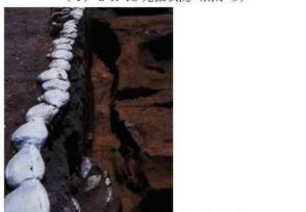
(3) S K 4 完掘状況 (北から)



(4) S K 13 完掘状況 (南から)



(5) S K 14 完掘状況 (北から)



(6) S K 32 完掘状況 (西から)



(7) S K 40 完掘状況 (南西から)



(8) S K 59 完掘状況 (東から)

図版 4



(1) S K 67 断面 (南から)



(2) S K 82 完掘状況 (北から)



(3) S K 93 遺物出土状況 (南から)



(4) S K 121 完掘状況 (南から)



(5) S K 124 完掘状況 (北から)



(6) S K 130 完掘状況 (南から)



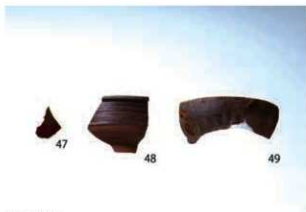
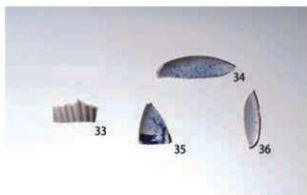
(7) S K 131 完掘状況 (北から)



(8) S K 139 完掘状況 (南から)

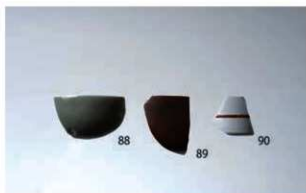


図版 6





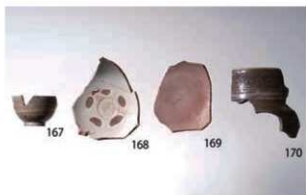
图版 8





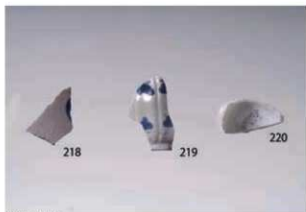
図版 10

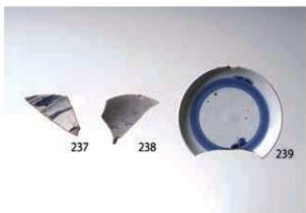




遺物写真 7

图版 12





遺物写真 9

图版 14



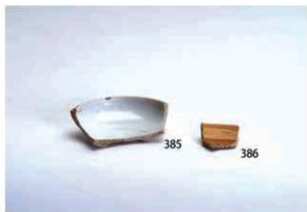


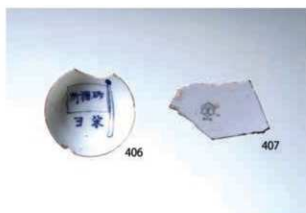
图版 16



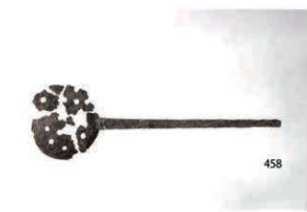
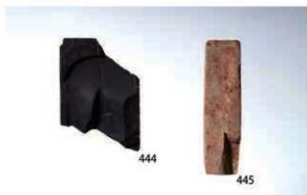
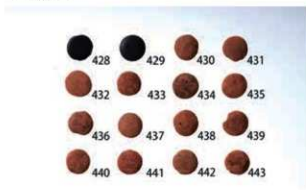


图版 18





图版 20



報告書抄録

ふりがな	じっけんやしきいせき ーだい10じはっくつちょうさほうこくー		
書名	十間屋敷遺跡 ー第10次発掘調査報告ー		
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第415集		
編著者名	大隈 彩未		
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課		
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp		
発行年月日	2020(令和2)年3月31日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じっけんやしきいせき 十間屋敷遺跡 第10次調査	ふくおけんくろめし 福岡県久留米市 ひよしまち 日吉町 22-2、22-15、 22-16、22-17	40203	031200	33° 17' 44"	130° 32' 11"	20180611 ～ 20181012	288㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
十間屋敷遺跡 第10次調査	集落	近世	溝 井戸 土坑 不明遺構 ビット	19条 2基 105基 1基 多数	近世陶磁器、土師器、 瓦質土器、瓦、金属製品、 ガラス製品など		久留米城下の十間屋敷 における屋敷境の溝を 検出した。	
要 約								
<p>十間屋敷の四宮市右衛門邸および田尻次郎右衛門邸、のちの井上弥左衛門邸および加藤郷藏邸を発掘調査した。近世を中心とした溝や井戸、土坑、ビットなどを検出した。調査区西部では多数の溝が確認され、17世紀から19世紀後半まで幅広い時期に及んでいる。溝は屋敷境としてほぼ同じ場所を踏襲してつくり替えられている。</p>								
土木工事の届出日		平成30年3月20日		遺物の発見通知日		平成30年10月15日 (30文財第934号)		

十間屋敷遺跡

—第10次発掘調査報告—

久留米市文化財調査報告書 第415集

令和2年3月31日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市市民文化部文化財保護課

印刷 服部印刷株式会社

久留米市梅満町 410 - 1